



今日のための  
聖所の奉仕からの光

# 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 十字架以前の福音          | 5  |
| 天地の間の通信           | 10 |
| ご自分の民と共にある神のご臨在   | 15 |
| 墮落した祭司職           | 20 |
| イスラエルに神のご臨在の象徴が戻る | 25 |
| まじめに疑っている人への忍耐    | 31 |
| 実物教訓である宮          | 36 |
| 年ごとの祭り：過越         | 41 |
| 年ごとの祭り：ペンテコステ     | 46 |
| 年ごとの祭り：贖罪の日       | 52 |
| 預言者ダニエルの幻         | 57 |
| 説明されたダニエルの幻の前半    | 62 |
| ご自分の聖所におられるキリスト   | 67 |

セブンスデーアドベンチスト  
ト改革運動世界総会 安息  
日 学 校 部 (P.O.Box 7240  
Roanoke, Virginia 24019-  
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.87, No.2

編集&発行：  
S D A改革運動日本ミッション

〒 368 - 0071  
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保  
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 26-5059

URL :  
<http://www.4angels.jp>

E-mail:  
[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

イラスト : Good Salt p. 1;  
istock.com p. 30, 72; Map  
Resources pp. 4, 51, 72;  
PhotoDisc p. 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することを強くお勧めします。

## まえがき

前期の安息日聖書教科で説明しましたように、今年一年(2011年)は、聖所の奉仕の光における救いの計画に関して、神のみ言葉を吟味していきます。

聖所の教理—黙示録14章の三重のメッセージの中で信徒たちに明らかにされてきたメッセージを通して、真理の数多くの特徴的な点に光があてられてきました。これが、現代の真理であり、わたしたちが世にそれを伝えることができる前に、自分たちがしっかりと立たなければならない真理です。

「わたしたちはみな、聖所の主題を念頭に置く必要がある。神は人の口から出る騒々しい言葉が、天に聖所があること、およびこの聖所の型がかつてこの地上に建てられたという真理を信じるわたしたちの民の信仰を減じようなことを断じてお許しにならない。神はご自分の民が、この型によく精通し、つねに天の聖所、すなわち神がすべてのすべてであられるところを自分たちの思いの前に置くよう望んでおられる。」(原稿2巻186)

「神の民は今、天の聖所に自分たちの目をしっかりと留めるべきである。そこは裁きの働きにおけるわたしたちの偉大な大祭司の最終的な働きが進められているところであり、このお方がご自分の民のためにとりなしておられるところである。」(伝道223)

「神の真の僕は、サタンのほのめかしや誘惑を、恵みのみ座に持っていく。そこでは、平安と服従が魂に流れ込む。彼が聖所の中に入るとき、自分たちの目の前に主の恐れをもたない人々の結末を知るようになる。……

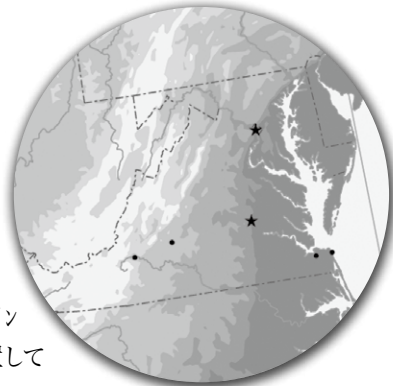
この終わりの時代に、主のさだめとおきてを守るようにとあなたに呼びかける天からの招きがある。世は、エホバの律法を無効とした。しかし、神はご自分の義の証人や、地上でご自分の真理を宣布する民をお持ちにならないことはない。天の聖所の戸は開かれたのであり、だれもそれを閉じることはできない。そして至聖所の光が世の中を照らしている。神の民は証の箱に注意を呼びかけられてきた。そしてその中の律法はその不変の規則と共に明らかにされてきた。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888年2月3日)

今期の教科は、「今日のための聖所の奉仕からの光」という主題です。世界中のわたしたちの安息日学校の生徒にとって、これらの教科が、まもないキリストの来臨のための準備にすべての人が必要としている知識をもたらす手段となりますように。これがわたしたちの祈りです。

—世界総会安息日学校支部—

## 第一安息日献金

米国バージニア州ロアノークの  
礼拝堂のために



「ロアノーク」という名前は世界中の信徒や友人たちになじみある名前かもしれませんが、なぜなら、ここにセブンスデー・アドベント改革運動世界総会の世界本部が位置しているからです。

改革のメッセージに対する灯台は、1984年に世界総会本部がニュージャージー州のブラックウッドからこの地域に移ってきたときに、ここバージニア州のロアノークへ設立されました。ロアノーク教会のメンバーのほとんどは、世界総会の役員とその家族であるにもかかわらず、働きはこの教会で着実に成長し、アメリカ合衆国南西フィールドの構成区となっています。働きはさまざまな伝道プログラム、とくに健康セミナーや料理教室、また何年にもわたってなされてきた個人的な努力によって、地域社会に伝えるために進められています。2002年以来、ロアノーク教会はまた、メディア伝道によって（オーディオ、ビデオテープ、DVD、そして最近ではインターネットを通じて）米国全土の遠隔地にいる多くの教会員を助けてきました。

地域の教会を開設してから27年たち、わたしたちはこの地域に定期的な集会や伝道プログラムを開催するためにより大きな施設を大いに必要としています。世界総会本部の小さな礼拝堂は15年以上、礼拝堂として用いられてきましたが、もはや特別集会や定期的な教会の集会を収容するにも小さすぎます。わたしたちはこの地域のこの望ましい成長を感謝し、より大きな建物を確保するためにあらゆる努力をしています。地元の兄弟姉妹は長い間このプロジェクトのために献金を捧げるのに忠実でした。しかし、いまだにこの必要な目的を果たすのに十分ではありません。

わたしたちは世界中のさまざまな地域から要求があるときはいつでも他の教会や集会所を助けてきました。いま、神の家族の一部として、今度はわたしたちが世界中の兄弟姉妹、友人方に、この2011年4月2日に第一安息日献金が集められるとき、惜しみない献金によって、わたしたちを助けて下さるようぜひともお願いいたします。

さきだってお礼を申し上げると共に、金銭的にまた祈りによって助けてくださるすべての人々を主が祝福してくださいように。

—バージニア州ロアノークの兄弟姉妹より—

## 十字架以前の福音

「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。」(ローマ 1:16)

「アダム、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてモーセは福音を理解していた。彼らは人の身代わりであり保証人であられるお方を通しての救いを待ち望んでいた。」(彼を知るために 102)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 433-441

日曜日

3月27日

### 1. わたしたちの初期の父祖たちの時代に

- a. どの事実が、アベルに福音があったことを証明していますか(創世記 4:4; ヘブル 11:4)。

「アベルは、贖罪の大原則を把握した。彼は自分が罪人で、彼の魂と神との間の交わりを、罪とその刑罰である死とが妨げているのを知った。彼は、ほふられた犠牲、すなわち、犠牲にされた生命をたずさえてきて、彼が犯した律法の要求を認めた。彼は、流された血によって、来たるべき犠牲、カルバリーの十字架上のキリストの死を見た。」(人類のあけぼの上巻 68)

- b. それぞれの父親が自分の家庭の祭司であったとき、福音の知識はどのように保存されましたか。例を挙げなさい(創世記 8:20; 12:8; 35:6, 7)。

「民の罪は、象徴において、務めをなす祭司、すなわち民のための仲保者であった者に移された。祭司は自らが罪のための捧げ物になり、かつ自分の命をもって贖罪をなすことはできなかった。なぜなら、彼もまた罪人であったからである。であるから、自分自身が死を受ける代わりに、彼は傷のない小羊を殺した。罪の刑罰は罪のない獣に移され、こうしてそれは彼の直接的な身代わりとなり、イエス・キリストの完全な捧げ物を象徴したのであった。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 230)

## 2. 父祖たちの時代に

### a. 父祖たちはどれほど良く福音を理解していましたか(ガラテヤ 3:8, 16)。

「キリストは、今日、あがないの主であると同様に、世の始めからのあがない主であられたのである。イエスが、人性によって神性をおおってこの世に来られる以前に、福音の使命はすでに、アダム、セツ、エノク、メトセラ、ノアによって伝えられたのである。アブラハムはカナンで、ロトはソドムで使命を伝えた。こうして、どの時代においても、忠実な使者たちは、きたるべきキリストのことを宣べた。」(キリストの実物教訓 104)

### b. アブラハムはどのように神のみ前で義と認められたのですか(ローマ 4:1-3; 3:20; ガラテヤ 3:6, 11)。

「もし人が、自分のどんな良い行いによっても救いを受ける価値がないとすれば、それは完全に恵みによるもの、すなわち人が罪人として、イエスを受け入れ信じるがゆえに受ける恵みによるものでなければならぬ。それはまったく無償の賜物である。」(信仰と行い 20)

### c. 罪人は今日どのように義と認められますか(エペソ 2:8, 9; ガラテヤ 2:16, 21; 5:6)。

「信仰によって〔罪人は〕キリストの功績を神の許へ持っていくことができる。そして主は神の御子の服従を罪人の勘定に記帳して下さる。キリストの義は人の失敗の代わりに受け入れられ、神は悔い改め信じる魂を受け入れ、許し、義認され、彼をあたかも義人であるかのように扱い、ご自分の御子と愛されるように、彼を愛されるのである。これが、いかに信仰が義と認められるかである。」(セレクッド・メッセージ 1 巻 367)

「旧約と新約の間には、しばしば主張されるような神の律法とキリストの福音、ユダヤ人の要求とクリスチャン時代の要求といったような対照性は存在しない。かつての時代のすべての魂は、今日の魂がキリストによって救われたのとまったく同様に、キリストによって救われたのである。」(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コット] 6 巻 1061)

「わたしたちがアブラハムの契約、すなわちキリスト・イエスを信じる信仰による恵みの契約の下に来るときにのみ、わたしたちには希望がある。アブラハムに宣べ伝えられ、彼が希望を持っていた福音は、今日わたしたちに宣べ伝えられ、わたしたちが希望を持っているのと同じ福音である。アブラハムはイエスを、すなわちわたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを見ていた。」(同上 1077)

### 3. わたしたちの聞いていることに信仰を結びつける

- a. 福音がイスラエルに宣べ伝えられていたにもかかわらず、なぜ、彼らには無益だったのですか（ローマ 9:30-32; ヘブル 4:2）。このことは、わたしたちにとって、どのような教訓ですか。

「わたしたちがみ言葉を聞くと、それがわたしたちにとって少しでも益になるためには、信仰と結びつかなければならない。わたしたちは信仰のうちに聞かなくてはならない。

わたしたちは聖霊の聖化を必要と、ああ、大いに必要としている。わたしたちは不注意に、無関心に、神と関係なく行動することがないように、かえって思いの謙遜のうちに行動するようにと警告されている。それはみ言葉の宣布がわたしたちにとって益となるためである。」（サザン・ウォッチマン 1904 年 3 月 1 日）

「サタンは思いをそらし、それを誤った思想で占めようと可能な限りすべてを働かせている。しかし、もしあなたの心がすべての汚れから清められるならば、あなたの聞いているみ言葉は信仰と結びつけられるのである。」（ユース・インストラクター 1898 年 9 月 1 日）

- b. イスラエルが福音を信じなかった結果は何でしたか。またこれは今日何と類似していますか（ヘブル 3:18, 19）。

「神はご自分の民イスラエルが荒野に 40 年間もさまようようにと意図しておられなかった。このお方は彼らをまっすぐカナンの地に導き入れ、そこで彼らを聖なる健やかで幸せな民として確立すると約束された。しかし、はじめに伝えられた人々は、『不信仰のゆえに』入らなかったのである。彼らの心はつぶやきと反逆と憎しみでいっぱいであり、このお方は彼らとの契約を果たすことがおできにならなかった。

40 年もの間、不信とつぶやきと反逆が昔のイスラエルを約束の地から閉め出した。同じ罪が現代のイスラエルが天のカナンに入るのを遅らせてきた。……わたしたちをこの罪と悲しみの世に、これほど長くとどめているのは、主のものだと公言する民の間の不信、世俗、献身しないこと、争いである。」（伝道 696）

- c. わたしたちのうちにあるこの問題の治療法は何ですか（ローマ 6:8-13; ヨハネ第一 1:7）。

「キリストのために、この世の歴史の最終時代に生きている人々は光のうちに歩もうではないか。」（原稿リッス 20 巻 3, 4）

#### 4. キリストを拒む自己義

- a. イスラエル人の不信は彼らの行動の中で、どのように表されましたか（ヘブル 3:8-10; 詩篇 78:5-11; 使徒行伝 7:53）。
- b. ユダヤ人は、どのように義を手に入れようと、むなしく試みましたか。そして、なぜ彼らは失敗したのですか（ローマ 9:31, 32; 10:3; ヨハネ 15:5）。

「律法は聖なるものであるが、ユダヤ人は律法を守ろうとする自己の努力によって義に到達することができなかった。」（祝福の山 68）

「〔ユダヤ人は〕律法的宗教に満足していて、他の人に天の生きた真理を与えることができなくなっていた。彼らは自分の義を十分満足のいくもののだと思い、自分たちの宗教に新しい要素がはいることを願わなかった。人間に対する神の好意を、彼らは自分たちに関係づけて受けとり、彼らの善行を理由にして神の好意と、自分たちの功績を結びつけた。愛によって働き、魂をきよめる信仰は、儀式と人間の命令から成り立つパリサイ人の宗教と、一致する場所を見いだすことはできなかった。」（患難から栄光へ上巻 6,7）

- c. このことに関して、パウロの態度はどのようにわたしたちの助けとなりますか（ピリピ 3:4-10）。

「わたしたちは自分自身の義を持つのではない。それは無価値である。たえずわたしたち自身の義を立てようと動き回るのは無駄である。なぜなら、わたしたちは立てるものを何も持ち合わせていないからである。

わたしたちは自分の考えを自分自身に集中させることによって、働きを安っぽいものにしてはならない。自分自身のことはできる限り少なく考えなさい。だれのことも悪く思ってはならない。キリストに従う人々は、このお方の栄光の模範の光のうちを歩まなければならない。そして代価や働きや苦しみが何であろうと、キリストの福音の改革的な教理に完全な忠誠をお捧げし、働きに自己を混ぜることなく、キリストの恵みを通して、魂の純潔と霊の純潔を維持しなければならない。自己を征服し続け、イエスを常に掲げ続け、そして、キリストの十字架の勝利を押し進めなさい。」（エレン・G・ホワイト 1888 年マテリアル 969）

「信心の形はだれも救うことがない。すべての人が深く生きた経験を持たなければならない。これだけが、彼らを悩みの時に救うのである。」（教会への証 1 巻 125）

## 5. いわゆる律法のない福音と呼ばれる誤った福音

- a. イエスはご自分に従う人々に、今日の欺瞞に対して、どのように警告なさいましたか (マタイ 5:17-20; 7:21-23; 15:3, 7-9)。

「罪人はだれ一人として決して祝福の住まいに入ることがない。戒めを破る者、また人が神聖な律法を破ろうが守ろうが何の違いもないと教えることによって、その人と結合するすべての人々は、全宇宙によって、人間の代理人の中で最も小さい者と呼ばれる。なぜなら、彼らは自分自身が不忠実であつたばかりでなく、他の人が神の律法を破るように教えてきたからである。キリストは律法の知識を持っていると主張していながら、教訓と模範によって魂を混乱と闇に導く人々に裁きを宣告なさる。」(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 5 巻 1085)

- b. 使徒パウロは、どのように不従順のユダヤ人と従順な異邦人の改心者の間の違いを示しましたか (ローマ 2:13-24; 3:31; 8:1-4, 7)。

「神の律法を守るためには、信仰が不可欠である。『信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。』『すべて信仰によらないことは、罪である』(ヘブル 11:6; ローマ 14:23)。(各時代の斗争闘下巻 154)

「良き知らせである福音は、人が神の正しい聖なる律法を犯すことによって、神に対する継続的な反逆のうちに生きることを許すものとして解釈されてはならない。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 9 月 21 日)

## 個人的な復習問題

- a. アブラハムの前に宣べ伝えられた福音は何でしたか。
- b. 何がアブラハムを義人としましたか。
- c. なぜユダヤ人は、まっすぐにカナンへと導かれる代わりに、荒野において 40 年間さまよわなければならなかったのですか。
- d. ユダヤ人は救いを何と取り替えましたか。
- e. 救いの代わりに提供されている正反対の今日の教理は何ですか。

## 天地の間の通信

「神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。」  
(ヘブル 1:1, 2)

「〔アダムの〕 不法の後、神はキリストと天使たちを通して、人間と通信なされた。」  
(預言の霊 1 巻 51)

推奨文献： 生き残る人々 62-65

日曜日

4月3日

### 1. キリストを通しての通信 (例)

- a. キリストはどのように「獄に捕われている霊ども」(イザヤ 42:7)、すなわち罪のうちに「死んでいる」(エペソ 2:1) 者に宣べ伝えられましたか(ペテロ第一 3:18-20; 4:6)。
- b. 二人の天来の使命者がゾドムへ向かって離れた後、アブラハムと語られた使命者はだれでしたか(創世記 18:2, 13, 17, 32, 33)。

「ふたりの天使は、アブラハムとあとのひとりを残して出かけたが、彼はいま、このかたが神のみ子であることを知った。」(人類のあけぼの上巻 141)

- c. ヤコブが必要としていた祝福を、罪が許されたという確証のうちに受けるまで、彼が格闘していた主は、だれでしたか(創世記 32:24-30)。

「格闘は夜明け近くまで続いた。見知らぬ相手の指がヤコブの腰に触れるや、彼はたちどころに不具者になってしまった。ヤコブは、この敵がだれであるかがわかった。彼は天使と戦っていたことを知った。彼のほとんど超人的力でも勝てなかったのはそのためであった。このかたは、『契約の天使』キリストで、ご自分をヤコブに現わされた。」(同上 215)

## 2. キリストを通しての通信（さらなる例）

- a. キリストはどのようにご自身をモーセに表されましたか（出エジプト 3:1-6; ヘブル 11:24-27）。

「モーセは神のうちに完全に確信を持っていた。なぜなら、彼はそれに相当する信仰を持っていたからである。……彼は自分の生活の細部にわたるすべてにおいて神を見、認め、そして自分がすべてをご覧になるお方の下にあることを感じた。」（教会への証 5 巻 651, 652）

- b. キリストはどのようにご自身をヨシュアとギデオンに表されましたか（ヨシュア 5:13-15; 士師記 6:22-24）。

- c. キリストはどのように、後にパウロと呼ばれたサウロにご自分を表されましたか（使徒行伝 9:1-6）。

「彼の前に輝かしい姿で立っておられるかたが、十字架にかけられたかただと彼にはわかった。」（患難から栄光へ上巻 120）

- d. キリストは今日どのように、わたしたちに表されますか（ヨハネ 5:39; 17:17）。

「イエスはすべての者に聖書を調べるようにと命じておられる。利口な探求者および自分で何が真理であるかを知ろうと願う人は、イエスの内にあるがままの真理を探り出すために自分の知能を働かせようではないか。ここで怠慢になることは魂を危険にさらすことである。わたしたちは個々にあらかじめ定められた永遠の命に入る条件を知らなければならない。わたしたちは神のみ声を知らなければならない。それはわたしたちが神の口から出るすべての言葉によって生きることができるためである。わたしたちはこれらの問題をわたしたちのために、他の人の思いによって、あるいは別の人の判断によって解決してもらうわけにはいかない。わたしたちは光を受けることや真理の証拠に心を開いて、注意深く聖書を探らなくてはならない。自分たちの魂の救いを、牧師や、怠惰な伝統や、人間の権威、あるいは見せかけに委ねるわけにはいかない。わたしたちは自分で神が何と仰せになったかを知らなければならない。わたしたちは神と共に働く共労者である。そして、わたしたちは救いの相続人となるべき人々に課された条件を知りたいと望み、また知らなければならない。さもなければ、わたしたちは罪の内に死んでしまう。人の意見は何か、人気のある信仰は何か、あるいは神父たちは何と言ったかについてが、わたしたちの研究主題となってはならない。わたしたちは群衆の声に信頼することはできない。そうではなく、何が神のみ声であるか、何がお方の表されたみ旨かを知りたいのである。このお方はわたしたちにご自分の語った言葉を残された。だから、わたしたちは真理を隠された宝のように探らなければならない。」（ビュー・アズ・ヘルド 1887 年 3 月 8 日）

### 3. 聖霊を通しての通信

- a. 神が聖霊を通してご自分の僕らと通信してこられたことを、どの証拠が示していますか（使徒行伝 13:2; 15:28; 16:7; 21:4）。

「救済の計画によって、地上の住民がなお天とのつながりを保つ道が開かれた。神は、聖霊によって人間と交わり、選ばれたしもべたちの啓示によって天来の光を世にお与えになった。」（各時代の大争闘上巻序文 I）

- b. 使徒ペテロが、四足獣でいっぱいの布を見たときの幻を述べなさい。このときに、だれが彼に語りましたか（使徒行伝 10:11-15, 19, 28; 11:7-12）。

「〔ペテロ〕は幻のことを再び取り上げた。その幻の中で彼は、あらゆる種類の四つ足の獣が入っている布を神から与えられ……たのである。」（患難から栄光へ上巻 208）

- c. 神は、だれを通して、ご自分の僕、すなわち預言者たちに啓示をお与えになりましたか（ヘブル 1:1; ペテロ第二 1:21）。

- d. 神のみ言葉の効果的な理解力を得るためには、何が不可欠ですか（コリント第一 14:15; 箴言 1:23）。

「神の御霊は聖書のすべてのページを照らしてきた。……聖なるページを照らしている聖霊は、何が真理か知ることができるように、わたしたちの理解力を開いてくださる。」（牧師への証 112）

「わたしたちは、みことばを通じてキリストを受け入れる。そして、わたしたちが神のみことばを理解し、その真理を心に悟ることができるように聖霊が与えられる。神のみ言葉を読むときには、その日の必要に対してわたしたちを力づける真理を、神が聖霊をつかわして表してくださるように、日ごとに祈るべきである。」（祝福の山 141）

「靈感の言葉は、心の中で熟考すると、命の水の川からあふれる流れのようになる。わたしたちの救い主は、弟子たちの思いが聖書を理解するために開かれるようにと祈られた。そしてわたしたちが祈りの心で聖書を研究するときはいつでも、聖霊がそばでわたしたちの読むみ言葉の意味を開いてくださるのである。」（わたしたちの高い召し 205）

#### 4. 天使たちを通して通信

##### a. 天使たちが人間と通信した例を挙げなさい。

- ・旧約から：創世記 16:7-11; 19:1; 列王記上 19:5-7
- ・新約から：ルカ 1:11-13, 28-30; マタイ 28:5; 使徒行伝 12:7-11

「天使たちは、神の子供たちに恵みを与えるために遣わされる。……こうしたことのために天使たちは、各時代において、神の民のために奉仕してきたのである。」(各時代の犬争闘下巻 253)

「永遠の光の中に神の摂理が明らかにされるまでは、われわれはどんなに天使たちに守られ助けられていたかを知ることができない。天使たちは人間世界のできごとに積極的な役割を果たしてきたのである。光り輝く衣をまとうて現われたり、旅びとの服装をした人間となって現われたのである。彼らは人の家庭でもてなしを受けたり、道に行き暮れた旅びとを案内したりしたのである。彼らは敵の意図をくじき、破壊者の手をとどめたのである。

この世の為政者たちはしらないが、天使たちが彼らの会議に発言したことは幾度もある。人間の目に彼らの姿が見え、人間の耳に彼らの訴えが聞こえたのである。会議室や法廷で、天の使者たちは迫害と圧制を受けている者たちのために弁護したのである。彼らは神の子らに災いと苦難をもたらすような目的をくじき、悪をとどめたのである。」(教育 356)

##### b. 神の御使たちの働きについて、わたしたちに何が教えられていますか(ヘブル 1:13, 14; 13:2)。

「[将来の学校では] あがなわれた者はだれでも、自分の一生における天使たちの奉仕を理解するであろう。生まれたときからわれわれを守ってくれた天使、われわれの歩みを見守り、危険の日にわれわれの頭上をおおってくれた天使、死の陰の谷にあつてわれわれとともにいた天使、われわれの最後のいいの場所に目をとめていてくれた天使、よみがえりの朝まっさきに迎えてくれる天使—この天使と語らい、自分の一生における神の摂理と人類のためのあらゆる働きにおける天の協力について話を聞くことはどんなにすばらしいことであろう。」(同上 356)

## 5. 聖所を通しての通信

- a. 神はどれほどしばしば、ウリム（「光」の意）やトンミム（「完全」もしくは「完全性」の意）を通して、ご自分のみ旨を知らせて下さいましたか（出エジプト 28:30; 申命記 33:8）。

「胸当の左右には特に輝いた二つの大きな宝石があった。これはウリムとトンミムと呼ばれていた。これによって神のみこころが大祭司を通して知らされた。決定すべき問題が主の前に持ち出されたとき、右の宝石の周囲に光輪がかかれば、これは神の是認もしくは認可のしるしとなり、左の宝石にかげりができれば、これは拒否もしくは認可されないしるしとなった。」（人類のあけぼの上巻 413, 414）

- b. どこで、どのように、そしていつ、神のみ声が大祭司に語られるのがしばしば聞かれましたか（出エジプト 25:22; 29:42, 43; レビ記 1:1; 民数記 12:5）。

「大祭司が一年に一回、至聖所の中にはいって行って、神の畏るべきご臨在のうちに箱の前で奉仕し、神にたずねると、神がはっきり聞える声で答えたもうことがよくあった。神が声でお答えにならない場合、是認すなわち賛成を示される時には、箱の上の右側のケルビムが光と栄光で輝いた。祭司の願いがしりぞけられた時には、左側のケルビムがくもった。」（生き残る人々 213）

## 個人的な復習問題

- a. 神がどのように父祖たちと語られたか、例を挙げなさい。  
b. 神がどのように預言者たちと語られたか、例を挙げなさい。  
c. 神が仰せになることを「聞く」より普通の方法は何ですか。  
d. 神がわたしたちと通信なさるときの御使たちの役割は何ですか。  
e. 昔、神は聖所を通して、ご自分の民とどのように通信なさいましたか。

## ご自分の民と共にある神のご臨在

「わたしはあなたがたのうちに歩み、あなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となるであろう。」(レビ記 26:12)

「イスラエル人は、背信によって神の臨在の祝福を失い、そのためしばらくの間、彼らのあいだに神のための聖所を建てることは不可能となった。だが、彼らが再び神の恵みを受けるようになってから、偉大なる指導者は、この神の命令の実現に着手した。」(人類のあけぼの上巻 405)

推奨文献： 各時代の希望上巻 6, 7

日曜日

4月10日

### 1. 幕屋の位置

- a. 囲いにかこまれた庭の中に建てられた幕屋は、野営の真ん中に建てられました(民数記 2:17)。なぜ「真ん中」なのですか。神の民の荒野での放浪の間、神のご臨在はどこにありましたか(レビ記 26:12; 申命記 23:14)。
- b. 今日、主のご臨在はどこに表されていますか(マタイ 18:20; エペソ 2:20-22)。

「イスラエル人が疲れはてて荒野をさまよい歩いていた間じゅう、神の臨在の象徴は〔神の民〕と共にあった。そのように、キリストはわれわれ人間の陣営の真ん中にご自分の幕屋をお建てになった。キリストはわれわれのうちに住み、ご自分のきよい品性と生活とをわれわれに表すために、人間の天幕のそばにご自分の天幕を張られた。」(各時代の希望上巻 7)

「キリストのみ言葉に真心から従うところにはどこでもキリストが住まわれる。キリストは、教会の集会の中におられるだけでなく、どんなに少人数でも、弟子たちがキリストのみ名によって集まるところにおられる。」(同上中巻 223)

## 2. 神のみ約束は条件付き

- a. 神は過去において、どのような条件に基づき、ご自分の民と共におられることを約束なさいましたか (出エジプト 19:5, 6; 歴代志下 15:2)。

「イスラエルは、神の民でなくなるか、それとも、王国の基礎である原則を維持して、神の力に支配される国になるかのどちらかにならなければならないかった。もし、イスラエルが、全く主のがわに立ち、人間的で地上的な意志を神の意志に服従させるならば、神は、引き続きイスラエルの支配者になられるのであった。王と国民とが神に従属したものとして行動するかがり、神は彼らの防御となられるのであった。しかし、イスラエルでは、すべてにおいて神の至上権を認めない王国は栄えることができなかった。……

われわれは、神の試練を受けるときに、それがどのような重大事にかかわりがあるかを知らない。神のみ言葉に、全的に服従する以外に安全はない。神の約束は、すべて、信仰と服従を条件にして与えられたもので、神の命令に応じなければ、聖書に示されている豊かな恵みにあずかることができない。われわれは衝動にかられたり、人間の判断に頼ったりしてはならない。われわれはどんな環境にあっても、神の啓示されたみこころを仰ぎ神の明らかな戒めに従って歩かなければならない。結果は、神が責任を負ってください。われわれは、試練のときに、神のみことばに忠実に従い、どんな困難な事態においても、神に信頼され、神のみ名に栄光を帰し、神の民の祝福となることができることを、人々と天使の前で実証することができるのである。」(人類のあけぼの下巻 288, 289)

- b. マタイ 28:20 の約束は、今日、どの条件に基づいて適用されますか (コリント第二 6:16-18)。

「神の約束も恐ろしい警告も同様に条件付きであることを覚えるべきである。」(セクレット・メッセージ 1 巻 67)

「神の約束は条件付きである。このお方がわたしたちを祝福できるようにするためには、わたしたちの分を果たさなければならない。わたしたちは、自分たちの手をこまねいて何もしないときに、自然とこのお方のあらゆる祝福が自分たちにもたらされると期待することはできない。わたしたちは神と共に働く共労者となるべきである。今にも滅びようとしている魂のために労するのは、わたしたちの特権であり、義務である。」(両親へのペテロの勧告 25)

### 3. 雲の柱と火の柱

- a. イスラエルの荒野の旅路において、神はどのようにご自分のご臨在を示してくださいましたか（出エジプト 13:21, 22）。

「キリストは、荒野をさすうイスラエルの子らの導き手であった。」（キリストの実物教訓 265）

『主は〔イスラエル人〕の前に行かれ、昼は雲の柱をもって彼らを導き、夜は火の柱をもって彼らを照し、昼も夜も彼らを進み行かせられた。昼は雲の柱、夜は火の柱が、民の前から離れなかった』（出エジプト 13:20-22）。『主は雲をひろげておおいし、夜は火をもって照された』と詩篇記者は言っている（詩篇 105:39。コリント第一 10:1, 2 参照）。目に見えない指導者の旗じるしが、いつも彼らのそばにあった。昼は、雲が彼らの旅路を導き、また、イスラエルの軍勢の頭上に天蓋のようにひろがっていた。それは、焼けるような熱から保護する役目を果たし、その涼気と湿度は、かわききって干からびたさばくの中で、生気を回復させるものとしてまことにありがたいものであった。夜になるとそれは火の柱になって、彼らの天幕を照らし、たえず主のご臨在を保証していた。」（人類のあけぼの上巻 325）

- b. この雲の柱と火の柱はまた、どのようにこの終わりの時代の神の民への慰めとなるよう意図されていますか（イザヤ 4:5, 6）。

「イザヤの最も美しく、慰めに満ちた預言の言葉のなかで、この雲と火の柱は、悪の勢力との最後の大争闘において、神が、神の民を守られることの象徴として用いられている。〔イザヤ 4:5, 6 引用〕。」（同上 325）

- c. 幕屋が存在する前は、キリストはご自分の僕たちにどのように語られましたか。例を挙げなさい（出エジプト 15:22-26; 19:9, 16）。

「キリストは、古代イスラエルの指導者また教師であられたが、健康は神の律法に従った報いであると、彼らにお教えになった。パレスチナで病人たちをいやされた大医師イエスは、古代イスラエルの民に雲の柱から語って、彼らのしなければならないことと神が彼らのためになされることについてお告げになった。」（各時代の希望下巻 372）

#### 4. わたしたちの行く道を照らしている光

- a. どのような意味において、雲の柱と火の柱は、今日わたしたちの前に動いていますか（ヨハネ 8:12; コリント第二 4:3-6）。

「神は人生行路に沿って、ご自分のみ座から光が輝くようにしてこられた。昼は雲の柱、夜は火の柱が、昔のイスラエルの前を行ったように、わたしたちの前を行っている。約束の地に自分と共に子供たちを連れて行くのは、いにしえの神の民の特権であつたように、今日、クリスチャンの親の特権である。」（家庭の教育 618）

- b. もしわたしたちが天国を失うとしたら、なぜ言い訳はできないのですか（ヨハネ 1:4, 5, 10-12）。

「すべての魂には、獲得すべき天と避けるべき地獄がある。そして天使たちはみな、試され、誘惑されている魂を助けに来るために準備ができています。無限の神の御子であられるお方は、わたしたちのためにテストと試練に耐えてくださった。カルバリーの十字架はすべての魂の前に生き生きと立っている。すべての人の判決が下り、そして彼ら〔失われた人々〕が神に対する自分たちの侮辱と自分たちの不服従におけるこのお方の誉れの無視のゆえに苦しむために救出されるとき、だれ一人言い訳はできないし、だれ一人滅びる必要はなかった。だれが自分たちの君となるか、キリストかサタンかは、彼ら自身の選択に任されていた。キリストが受けられたすべての助けを、大いなる試練のときにすべての人が受けることができる。」（*ヘルゲット・メッセージ* 1 巻 96）

- c. わたしたちはどのように神のご臨在の光のうちを歩むことができますか（ヘブル 10:16-22）。

「わたしたちの天の父は、あふれるばかりの祝福をわたしたちに与えたいと待っておられる。限りなき愛の泉のほとりで思う存分飲むことは、わたしたちの特権である。それなのにわたしたちが少ししか祈らないのは、なんと不思議なことであろう。……神のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光も神の臨在も仰がず、満足して日を送っているように思われるのである。

悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、誘惑の言葉をささやいて罪へおびき入れる。それというのも、ただわたしたちが、神の定めたもうた祈りの特権を用いないからである。祈りは、全能の神の無限の資財が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵である。それにもかかわらず、神の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのであろうか。」（キリストへの道 128, 129）

## 5. 神のみ声

- a. 父なる神は、イスラエル人に、彼らの繁栄という関心事のために、どのような訓告を述べられましたか（出エジプト 23:20-22）。彼らの前を行かれる御使はだれでしたか（コリント第一 10:4, 9）。

「真の敬神は服従によって表される。神は重要不可欠でないことは何もお命じにならない。そして敬神を表すのに、神が言われたことへの服従によることほど、このお方を喜ばせる方法は他にない。」（今日のわたしの生涯 284）

- b. 今日神はどのようにわたしたちに語られますか（イザヤ 30:21）。わたしたちの啓発された良心の「耳」は、どのようにこのお方のみ声を聞きますか（ヨハネ 16:13; 黙示録 3:20; ヘブル 3:7, 8）。

「神のみ言葉や、神の使命者たちを通して与えられる警告と譴責と懇願の一つ一つは、心の戸をたたく音である。それは中に入ることを求めておられるイエスのみ声である。」（各時代の希望中巻 291）

「永遠の命か永遠の死か、今自分たちの決定を下しつつある人々は、何千につぐ何千、何百万につぐ何百万という。」（教会への証 6 巻 406）

「避けるべき地獄と獲得すべき天国とがあることを全心全霊から信じている人は少ない。」（各時代の希望下巻 105）

## 個人的な復習問題

- a. 御父と御子は今日、どこでだれを通して地上に住まわれますか。  
b. イエスがわたしたちのうちに宿られる前に要求なさる条件は何ですか。  
c. 荒野で、キリストはご自身をどのように見えるかたちでイスラエルに会われましたか。  
d. 今日、神はわたしたちにとって、どのように雲や火の柱であらわれますか。  
e. あなたは自分には「獲得すべき天と避けるべき地獄がある」と本当に信じていますか。

## 墮落した祭司職

「われわれの王たち、つかさたち、祭司たち、先祖たちはあなたの律法を行わず、あなたがお与えになった命令と戒めとに聞き従いませんでした。あなたはそれをもって彼らに対して証なさいました。」(ネヘミヤ 9:34 英語訳)

「聖なることのために働く者は、神を敬うことと、神を怒らせることを恐れることとを深く人々に印象づける模範を与えなければならない。人が『キリストに代って』(コリント第二 5:20)、人々に、神のあわれみと和解の使命を語るとき、その聖職を利己心や情欲の満足のためのおおいとするならば、彼らは、サタンの最も有力な部下になる。ホフニとピネハスのように、彼らは人々に、『主の供え物を軽んじ』させる。」(人類のあけぼの下巻 236)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 230-238

日曜日

4月17日

### 1. 約束の地におけるイスラエルの子ら

- a. ヨルダン川を渡った後、イスラエル人は幕屋をもってどこに暫定的な本部を構えましたか(ヨシュア 4:19; 5:10; 10:6)。

「ヘブル人は、ヨルダン川からさほど遠くないところに、カナンにおける最初の宿営を張った。ここでヨシュアは、『イスラエルの人々に割礼を行なった。』『イスラエルの人々はギルガルに宿営し……過越の祭を行なった』(ヨシュア 5:3, 10)。」(人類のあけぼの下巻 106)

- b. イスラエル人がカナンの地に定着して後、どこに幕屋を建てましたか(ヨシュア 18:1)。

「それまで、ギルガルが国家の本部であり、幕屋の所在地であった。しかし、今、幕屋はその恒久的な所在地として選ばれた場所へ引っ越すことになった。それは、エフライムの土地にある小さな町シロであった。シロはカナンの地の中央に近く、どの部族にとっても都合のよい場所だった。」(同上 143, 144)

## 2. 無秩序状態

- a. 祭司職から始まったイスラエルの背教が、士師の時代の終わりに向かってどうなったかを述べなさい (サムエル記上 2:12, 17, 22)。大祭司のあまい譴責は、彼の息子たちにどのような効果がありましたか (サムエル記上 2:23-25)。

「民は祭司たち〔ホフニとピネハス〕への畏敬の念のうちに立ち、彼らの法にかなわない要求に服して、捧げ物にあずかるという正当な権利を自分自身から奪った。こうして、食欲、利己心、貪欲が勝利し、すべての心が世の罪を取り除くべき偉大な犠牲への悔悟と信仰に向けられるべきまさにその時に、彼らの邪悪な感化力が民の上に及んだ。これらのことは民に力強い感化力を及ぼし、彼らはすみやかに犠牲の捧げ物の神聖さと聖所の奉仕に出席する重要性の感覚を失っていった。

不誠実な祭司たちは、自分たちの犯罪の暗い目録に放縱を加えた。それでもなお、彼らは自分たちの存在によって主の幕屋を汚し、罪の重荷を載せ、聖なる神の御前に大胆に出て行った。イスラエルの人々が祭司たちの墮落した一連の行動を目撃したとき、彼らは自分たちの家族が、礼拝に定められた場所に上っていかない方が安全だと考えた。多くの人々は自分たちの平安を破られ、義憤を呼び覚まされてシロから出てきた。そしてついに、彼らは聖所で行われている忌むべきことがなんらかのかたちで是認されているのであれば、自分で自分の犠牲を捧げても神は十分受け入れてくださるであろうと結論し、これからそうすることを決意するに至った。」(サィズ・オブ・ザ・タイムズ 1881 年 12 月 1 日)

- b. 神は大祭司エリにどのようなメッセージを送られましたか(サムエル記上 2:27-29, 34, 35)。このメッセージはどのように見なされましたか。

「エリは、真の悔い改めの実を示さなかった。彼は、罪を告白したが、その罪を捨てなかった。主は、何年も刑罰をくだすことを延ばされた。その間に、過去の失敗を償う多くのことができたのであったが、年をとった祭司は、主の聖所を汚し、イスラエルの幾千という魂を滅びに陥れていた悪を正すために、効果的な手段を取らなかった。神の忍耐は、ホフニとピネハスの心を堅くし、さらに大胆に罪を犯させた。エリは、自分の家に与えられた警告と譴責の言葉を、全国に知らせた。……しかし、祭司たちと同様に、人々も警告を無視した。」(人類のあけぼの下巻 241)

### 3. エリに責任が問われた

- a. 神は二度目に、だれを通して、どのようにエリに警告なさいましたか（サムエル記上 3:2-18）。

「エリは、イスラエルの祭司であり、士師であつた。彼は、神の民の中で、最高で最も責任ある地位を占めていた。祭司の聖職に選ばれた人、また、国じゅうで最高の裁判権を持った者として、エリは、人々の模範として尊敬され、イスラエルの部族に大きな感化を及ぼしていた。ところが、彼は、人々を治める任命は受けたが、自分自身の家は治めなかった。エリは、甘い父親であつた。彼は平和と安易を愛したので、彼の権威を行使して子供たちの悪習慣と情欲を是正しなかった。彼は、子供たちと争ったり彼らを罰したりしないで、子供たちのしたいほうだいのことをやらせておいた。彼は、子供たちの教育が、彼の最も重大な責任の一つであることを自覚しないで、そのことを軽視した。」（人類のあけぼの下巻 230）

- b. 親の責任に関して、エリとアブラハムの違いを述べなさい（サムエル記上 2:30; 創世記 18:19）。

「エリは、子供たちのするがままになっていた。父親は、子供たちの家来であつた。犯罪ののろいは、彼のむすこたちの行為にあらわれた腐敗と悪に明らかに見られた。彼らは、神の品性も神の律法の神聖さも正しく理解しなかった。彼らにとって、神に仕えることは、普通のことであつた。彼らは、子供のときから聖所とその務めになれていた。しかし、彼らは、もつと敬神深くなるかわりに、その神聖さと意義とを、まったく見失ってしまった。」（同上 231）

「エリとアブラハムの場合は、なんという顕著な対照をなしていることであろう！一人の模範は親が同じ道をたどることを避けるべきために与えられ、もう一人の模範は親が模倣するようにと与えられている。各々の特徴は、はっきりと区別されている。各々、自分自身の生涯ばかりではなく、将来の世代にまで、その子からその子の子にまで至る結果が見られる働きをしていたのであつた。人が自分自身の家族に及ぼす感化力は、その人の宗教経験の真実性を証する。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1886年5月4日）

#### 4. 今日のための教訓

- a. もし賢明な父親が自分の子らを愛しているとすれば、何をしますか（箴言 3:11, 12; 22:15）。青年たちは、自分が賢いか愚かであるかを、どのように証明しますか（箴言 10:1, 8; 13:1; 15:5, 20）。

「自分の好きかってなことを行なつて、子供たちを盲愛し、子供たちの利己的な欲望をほしいままにさせる者、また、神の権威によって、子供たちの罪を責め、悪を是正しない者は、神を尊ぶよりは、彼らの悪い子供たちを尊んでいることを示している。彼らは、神に栄光を帰するよりは、彼らの評判を保護することにもっと気を使っている。主を喜ばせ、主のご用をあらゆる種類の悪から守ることよりは、彼らの子供たちを喜ばせることを望んでいる。……

家族または神の教会を清める努力を熱心に行ないない者は、その義務の怠慢の結果生じた悪の責任を問われる。親として、または牧師としての権威によって、とどめることができた人の悪は、あたかもそれが自分の行為であるかのように責任を問われる。」（人類のあけぼの下巻 234）

- b. 矯正を受ける重要性を聖書はどのように強調していますか（ヘブル 12:5-8）。わたしたちは霊的に不具な人々を助けるために、何をすることができますか（ヘブル 12:13; ガラテヤ 6:1）。

「多くの人々は真理に定着し、わたしたちの信仰のすべての点において堅く断固としているように見える。それでもなお、彼らに大いに欠けているものがある一偉大な型であられるお方の品性に顕著な優しさと愛である。兄弟が真理からそれるとき、また彼が誘惑に陥るとき、彼らは自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと考えて彼を柔和のうちに回復しようという努力を払わない。彼らは、裁きの座に上り、非難し、除名するのが自分の特別な働きだと考えているかのようである。……〔ガラテヤ 6:1 引用〕。この聖句の精神がわたしたちの教会の中であまりにもまれである。神の御霊を心から、家庭から、教会から締め出しているのは、この精神の欠如である。わたしたちはこれから、誤っている人々を柔和の精神で回復するという聖書の計画を実行しないであろうか。わたしたちはイエスの精神をもち、このお方が働かれたように、働かないであろうか。……

あなたの最も苦い敵、すなわちできることならあなたを傷つけたいと思っている人々でさえも、敬意と尊敬をもって扱いなさい。」（ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 12 月 16 日）

## 5. イスラエルが敗れ、契約の箱が取り去られる

- a. イスラエルの人々はペリシテ人によって敗れたときに、何をしましたか（サムエル記上 4:1-4）。その結果は何でしたか（サムエル記上 4:10, 11; 5:1, 2）。

「神のみこころの知識があればあるほど、それを無視する者の罪は大きいのである。

イスラエルには、最も戦慄すべき災害がくだった。神の箱は奪われ、敵の手中に陥った。エホバの臨在と能力の象徴が、彼らの中から取り去られて、まさに栄光が、イスラエルから離れた。」（人類のあけぼの下巻 243）

- b. エリに悲しい知らせを伝えに使者が戻ってきたとき、シロにいた大祭司と民はどのように反応しましたか（サムエル記上 4:12-18）。

「彼は、彼の罪のためにこのように神をはずかしめ、神の臨在がイスラエルから取り去られるに至ったことを考えたときに、もう耐えることができなかった。彼は、力が抜けて倒れ、『首を折って死んだ』（サムエル記上 4:18）。」（同上 244）

- c. どのようにイスラエル人の前に恐ろしい経験が繰り返しもたらされましたか。そして、それは何のためでしたか（詩篇 78:56-61; エレミヤ 7:12, 14）。

「〔人の子ら〕は、神の創造のみわざ、また、神の言葉の警告、勧告、譴責などの中に、神のみ声を聞くことを拒んだので、神はやむを得ず、刑罰を通して彼らに語らなければならなくなった。」（同上 248）

## 個人的な復習問題

- a. イスラエル人は自分たちの本部を約束の地のどこに建てましたか。そして彼らは後にどの場所へ聖所を移しましたか。
- b. 祭司エリの時代におけるイスラエルの状態を描写しなさい。
- c. 神はなぜエリに責任を問われたのですか。
- d. 聖書は正しい教育と誤った教育をどのように区別していますか。
- e. 神は悲劇的なシロの出来事を通じて、イスラエルに何をお教えになりましたか。

## イスラエルに神のご臨在の象徴が戻る

「ペリシテびとは、祭司や占い師を呼んで言った、『イスラエルの神の箱をどうしましょうか』。」(サムエル記上 6:2)

「七ヶ月もの長い間、契約の箱はパレスチナにとどまっていた。この期間を通じて、イスラエル人は、エホバのご臨在の象徴を回復しようという試みを何もしなかった。しかしペリシテ人はいまや、その力を得ようとしたのと同じくらいその力から自由になろうと切望した。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年1月12日)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 245-252

日曜日

4月24日

### 1. 契約の箱が送り返される

- a. ペリシテ人は、自分たちが契約の箱—神聖なご臨在の象徴—を取ることによって、イスラエルの神の怒りをかったことを悟ったとき、何をしようと決心しましたか(サムエル記上 6:1-3)。

「ペリシテ人のつかさたちが、彼らを苦しめた災害の像を作るように指示したのは、一般に行なわれていた迷信に従ったものであった。」(人類のあけぼの下巻 247)

- b. 契約の箱は、どのようにイスラエルの地と民に返されましたか。サムエル記上 6:7-9, 14, 15 に述べられている出来事を要約しなさい。
- c. 神のご臨在のしるしに対する敬意の欠如のゆえに、なぜペリシテ人に対するよりもイスラエル人に対する方が刑罰が重かったのですか(サムエル記上 6:19, 20; ヤコブ 4:17)。

「ペリシテ人は、神の律法を知らなかったから、箱をイスラエルに返すときに車に載せた。そして、主は、彼らの努力をお受け入れになった。しかし、イスラエル人は、彼らの手中に、これらすべてのことに関する神のみむねを明らかにしたものを持っていた。そして、これらの指示をなおざりにすることは、神のみ栄えを汚すことであった。」(同上 400, 401)

## 2. キリアテ・ヤリムに移された契約の箱

- a. ベテシメシで生き残った人々は、神の箱を自分たちの真中に持つことを恐れて、他のどの場所へそれを送りましたか。それはそこにどれくらいの間とどまりましたか。その間に、イスラエルの民は何をするように導かれましたか。またそれはなぜですか (サムエル記上 6:21; 7:1, 2)。
- b. サムエル―大祭司、預言者、士師―は、背教によって生じた困難な状況から抜け出す第一歩として、何をするよう民に命じましたか (サムエル記上 7:3)。わたしたちにとって、今日これはどのように教訓ですか。

「神の買われた所有として、わたしたちは、自分たちの生来の傾向によらず、神の御霊に調和して、キリストがその聖なる奉仕において働かれたように働くという契約の下にいる。しかし、人間の生活は、福音がその状態を見ている通り、罪で満ちている。誘惑に屈することによって、彼らは自分たちの服従する力を弱めてきた。彼らの心は『心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている』(エレミヤ 17:9)。彼らはとがと罪のうちに死んでおり、自分自身の力では、何のよいこともなすことができない。

神に受け入れられるように奉仕するためには、『新しく生れ』なければならない(ヨハネ 3:7)。

わたしたちの生来の性質、すなわち神の御霊に反するものは、取り去られなければならない。わたしたちはキリスト・イエスにある新しい男女にされなければならない。わたしたちの古い、新たにされていない命は、新しい命―愛と信頼と自発的な従順に満ちた命―に場所を譲らなければならない。……この変化が起こらない限り、わたしたちは神に正しく仕えることができない。わたしたちの働きは欠陥のあるものとなり、地上の計画が持ち込まれ、神を汚す異火が捧げられるようになる。わたしたちの生活は清くなく、幸福でなく、不安と問題で満ちたものとなる。

新生によって象徴されている心の変化は、ただ聖霊の効果的な働きによってのみもたらされることができる。それだけがわたしたちをすべての不純から清めることができる。もしそれがわたしたちの心を形づくり、形成することを許されるなら、わたしたちは神の王国の性質を見極めることができるようになり、わたしたちがこの王国に入ることができる前に、なされなければならない変化の必要を認めるようになる。誇りと自己愛は神の御霊に抵抗する。すべての魂の生来の性質は、自己尊重と誇りからキリストの柔和と心の低さへの変化に反対する。しかし、もしわたしたちが永遠の命への道を旅したいのであれば、自己のささやきに耳を貸してはならない。」(ユス・インストラクター 1897 年 9 月 9 日)

### 3. エルサレムへの道中での契約の箱

- a. ダビデがイスラエルの王座に定着したとき、彼は神の箱について、何をしようと決心しましたか（歴代志上 13:1-6）。

「ダビデは、それを非常な喜びと荘厳な式典にしたいと思ったので、イスラエルの指導者たち三万人を召集した。人々は、喜んで召集に応じた。大祭司と聖職についていた兄弟たち、部族のつかさたちや指導者たちは、キリアテ・ヤリムに参集した。ダビデは、聖なる熱意に燃えていた。箱は、アビナダブの家から運び出されて、新しい牛車にのせられた。そして、アビナダブのふたりのむすこがそれにつきそった。

イスラエルの人々は、大喜びで叫び、歓喜の歌をうたって従い、楽器の音に合わせて歌う群衆の声がそれに和した。『ダビデとイスラエルの全家は琴と立琴と手鼓と鈴とシンバルとをもつて歌をうたい、……』（サムエル記下 6:5）。イスラエルが、このように勝ち誇った光景を目撃したのは、久しぶりのことであった。厳粛なうちにも喜びに満ちて、巨大な行列は山を越え谷を渡って、聖都に向かって進んだ。」（人類のあけぼの下巻 399）

- b. ダビデと民が神の箱を移している途中で何が起こりましたか（サムエル記下 6:5-10）。

「突然、喜んでいた群衆は恐怖に襲われた。ダビデは、驚き、大いに恐れて、心の中で神の正義を疑った。彼は、神の臨在の象徴として箱を尊ぼうとしていたのである。それなのになぜこの恐ろしい罰が与えられて、喜ばしい光景が悲しみと嘆きの時とかわったのであろうか。……

ウザの死は、明白な命令にそむいた罰であった。主は、モーセによって、箱を運ぶときの特別の指示を与えておられた。アロンの子孫の祭司以外は、それに触れることも、おおいをかけずに見ることさえできなかった。……したがって、彼らがキリアテ・ヤリムから箱を移動した場合、主の指示に対して直接、許すことのできない違反を犯したのであった。」（同上 400）

#### 4. オベデエドムの家における契約の箱

- a. 契約の箱がオベデエドムの家に安置され、ダビデが自分自身の心を吟味する時間を持っていた間、なぜ全イスラエルの注意はオベデエドムとその家に向けられたのですか（サムエル記下 6:11）。

「ダビデは、彼自身の心が、神の前に全的には正しい関係にないことを感じた。そして、ウザが撃たれたのを見て、自分も何かの罪のために罰せられるのではないかと思つて、箱を恐れた。……

神の譴責は、ダビデに対してその働きを成し遂げた。彼は、これまでになかったほどに、神の律法の神聖さと厳密に服従する必要とを自覚した。オベデエドムの家が祝福されたので、ダビデは、箱が彼と彼の民に祝福をもたらすであろうという希望をふたたびいだくことができた。」（人類のあけぼの下巻 401）

- b. オベデエドムにもたらされた祝福から、わたしたちは何を学ぶべきですか（詩篇 140:13）。

「わたしたちは家庭におけるキリストの変わらないご臨在の祝福を求めて祈ろうではないか。子供たちにこのお方への信仰と信頼の教訓を教えるために時間を取ろう。わたしたちはそうすることによって自分たちの事業をなおぎりにしていると思うかもしれないが、そうであろうか。わたしたちは神の祝福のために神を求める時間を取ることによって、損をすることは決してない。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1909 年 3 月 3 日）

- c. 三ヶ月の期間後、契約の箱はどうされましたか（サムエル記下 6:12, 17; 歴代志上 15:1-3）。

「〔ダビデ〕は、三か月後にもう一度箱を移動させようと考えた。そして、今度は、主の指示に厳密に従おうと真剣に注意するのであった。ふたたび、国家のおもだった人々が召集され、大群衆がガテ人の家のまわりに集まった。箱はうやうやしく、神の命を受けた人々の肩に載せられた。群衆は、その後に従った。大行列は、震えおののきながら、ふたたび動き出した。六歩進むと、ラッパが鳴って大行列は止まった。ダビデの命によって、『牛と肥えた物』が犠牲としてささげられた。こうして、恐れとおののきが喜びに代わった。」（人類のあけぼの下巻 401, 402）

## 5. エルサレムに運ばれた契約の箱

- a. 契約の箱に従う行進が首都に近づくにつれ、何百もの声からどのような歌が聞かれましたか（詩篇 24:7-10）。

「凱旋の行列は、彼らの目には見えない王の神聖な象徴に従って、都に近づいた。すると、突然、人々は大声で歌いだして、城壁を守る者らに、聖都の門を開くように命じた。〔詩篇 24:7-10 引用〕。」（人類のあけぼの下巻 403）

- b. 神の箱をもどしたことは、民にどのような効果を及ぼしましたか（歴代志上 16:7, 30-36）。

「箱の移動に当たって行なわれた厳粛な儀式は、イスラエルの人々に忘れ得ぬ印象を与えた。それは、聖所の務めに深い関心を喚起し、主に対する熱心を新たに燃え立たせた。ダビデは、力のかぎりを尽くして、こうした印象を深めようと努力した。歌による礼拝が、定期集会の中で定まっていくなされるようになった。ダビデは、聖所の務めのときに祭司が歌う詩篇ばかりでなくて、年ごとの祭りの際に、国立の祭壇まで人々が旅をするときに歌うものも作った。こうした影響は非常に強く、国家が偶像礼拝に陥るのを防いだ。」（同上 405）

- c. 神のご計画において、イスラエルが近隣諸国を征服するために用いるべき「武器」はどのような種類のものでしたか（申命記 1:30; 3:21, 22; 歴代志下 20:21, 22）。

## 個人的な復習問題

- a. なぜペリシテ人はイスラエルに神の箱を戻そうと決心したのですか。
- b. 契約の箱をあえてさわった人々を罰する際に、神はユダヤ人と異邦人にどのような差をつけられましたか。なぜそのような差があったのですか。
- c. 神はどのような条件に基づいて、イスラエルをその敵から守られましたか。
- d. 契約の箱のエルサレム到着に、どのような歓迎がなされましたか。
- e. イスラエルが他の国々を征服するために必要とした主な「武器」は何でしたか。何がいつも剣より重要でしたか。

## 第一安息日献金

ミネアポリス・プロジェクト 2011 のために

復活後、イエスは弟子たちに意味と目的をお与えになりました。このお方は「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」（マルコ 16:15）と言われました。今日同じ任務がわたしたちに与えられています。「真の弟子はみな伝道者として神の国に生まれているのである。」（各時代の希望上巻 234）



伝道活動の領域においてわたしたちの努力が最もなおざりにされているうち一つは、個々人の暮らし向きが他の国々よりも良い諸国の働きです。わたしたちは彼らがメッセージには関心がないだろうと考えるがゆえに、頭から彼らをかえりみません。「わたしたちはなおざりにされている貧しい人々について多くを語り、記している。幾分かの注意が、なおざりにされている富裕者にも向けられるべきではないであろうか。多くの人々は、この種類の人々を希望のないものとみなし、サタンの方に盲目にされ、くらまされて、自分たちの計算から永遠を見失っている人々の目を開くためにほとんど努力しない。何千もの裕福な人々は、外面によって裁かれて、希望のない対象として見過ごしにされるがゆえに警告を受けることなく、墓へ下っていった。……わたしたちは彼らのために個人的な努力をしないのであろうか。」（教会への証 6 巻 78）。

世界総会伝道支部では、過去二年間にさまざまな地域における伝道を計画しました。2010 年のジュネーブプロジェクト（8 月 6 日～29 日、スイス）の間は、30 人の青年と成人アドバイザーが、健康集会、預言の霊セミナー、また「最終的な支配力を得るために争う」と題された預言と健康セミナーへの招待を 10 万人とわからあうために夏の二ヶ月のあいだ専念しました。

今年は、SDARM に深い歴史的意味のある別のプログラムを計画しています。わたしたちは 2011 年のために、ミネソタ州のミネアポリスを選びました（6 月 12 日～7 月 31 日）。この場所を選んだのは、ただ長い間なおざりにされていたばかりではなく、この国の文書伝道の経験に基づき、青年たちが渴いている魂にどのように価値のある文書を売るかを学べる伝道地があるからです。

この規模のプロジェクトは皆さんの継続的な祈りと、多くのボランティアと同様に皆さんの資金的な助けが必要です。ミネアポリスプロジェクト 2011 を成功させるための皆さんの心からの献金をさきだって感謝いたします。

—世界総会伝道支部—

## まじめに疑っている人への忍耐

「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。」(イザヤ 55:6)

「神はわたしたちの罪のゆえに、わたしたちをあきらめてしまわれることはない。わたしたちは過ちを犯し、このお方の御霊を悲しませることがあるかもしれないが、悔い改めて、悔悟の心をもってこのお方の御許へ行くと、このお方がわたしたちを追い返されることはない。」(セクレット・メッセージ 1 巻 350)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 100-104

日曜日

5月1日

### 1. 人性の道徳的状态

- a. アダムはこの世の統治権をだれの手に売り渡しましたか (ルカ 4:5, 6; ヨハネ 16:11; ヨハネ第一 5:18, 19)。罪のうちに生きている人々を支配しているのは、だれの精神ですか (エペソ 2:1-3)。

「われわれはこの世に主権を争っている二大勢力のどちらかに必然的に支配されるのである。暗黒の王国の支配に入るためには、わざわざその国の奉仕を選ぶ必要はない。光の王国と同盟することを怠りさえすればよいのである。もしわれわれが天の勢力と協力しなければ、サタンは心を占領してそこを永住の地とする。」(各時代の希望中巻 41, 42)

- b. 故意の罪人は、どの考えをもって自らを欺きますか (マラキ 3:14, 15; 伝道の書 8:11)。

「サタンは、誘惑を一時に並べたててやってはこない。彼は、誘惑をいつわって善に似せる。サタンが娯楽や愚かなことに、いくらか役にたつようなことを混ぜるので、だまされた魂はそういうことの中から、非常な益が得られるはずだと言ひわけをする。それは欺瞞的な言い分にすぎない。それは、仮面をかぶったサタンの憎むべき手段である。だまされた魂は一步進み、さらに次の一步をふみ出すばかりになっている。」(青年への使命 73)

## 2. 普通の誘惑

- a. 詩篇記者は、悪人たちの地上での繁栄を見たとき、どのように誘惑されましたか（詩篇 73:2-13）。神から目をそらされる（あるいは神に背を向けるように誘惑される）すべての人の思いには、どのような苦闘がおこりますか。

「ときに、逆境や悲しみの下で、神の僕たちが失望落胆することがある。彼らは自分たちの状況をくよくよと考え、自分たちの状態と、永遠の事柄は何も考えず気にもしない人々の繁栄を比較して、悩むのである。彼らは自分たちの運命に、非難とつぶやきと不平の精神を表す。彼らはあたかも神が彼らを祝福し、彼らの事業を繁栄させる特別な義務の下にいるのだと思っているかのようである。であるから、彼らが試練の状況におかれると反逆的になり、悪行の中で栄えている悪人たちをうらやみの目で見る。彼らは不法者たちの状態を自分自身の立場よりも好ましいと考えているかのようである。これらの苦々しい考えが、人類の欺瞞者から思いにほめかされる。神の子らの胸のうちに反逆をかきたてるのを、彼は喜ぶ。彼はこれが彼らに弱さを生じさせ、彼らの神を辱める源となることを知っている。彼はわたしたちが、神に仕えることはむなしい、また天の要求を氣にとめない人々の方が、神の戒めに従おうと奮闘している人々よりも恩寵を受けていると考えるように望んでいる。

詩篇記者ダビデはこの経験をした。彼が悪人たちの栄えている状態を見たとき、彼らの成功をうらやんだ。……〔詩篇 73:12-14 引用〕。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 2 月 3 日）

- b. いつ、どこで、どのように、王は神を畏れない人々とは対照的な神を畏れる人々の最終的な最後を悟りましたか（詩篇 73:16, 17）。

「〔ダビデが〕聖所に入り、主と交わったときに、彼はもはや悪人たちの分を望まなくなった。なぜなら、そのとき彼は彼らの最後を理解したからである。彼は彼らの道がついには滅びへ導き、彼らの楽しみはつかの間にすぎないことを見た。ねたみはもはや彼の心のうちになかった。彼の反逆的な精神は自分の神への謙遜な服従のうちに頭をたれた。」（同上）

- c. 聖所の奉仕の中で、彼はどのように悪人たちの最後を直視しましたか（詩篇 73:18, 19, 27; 75:8; 76:12）。彼はまたどのように悔い改めた罪人に伸ばされているあわれみ深い神の御手を見ましたか（詩篇 77:7-9, 15）。

### 3. 詩篇記者の告白

- a. 詩篇記者は自分の目が開かれた後に、どのような告白をしましたか（詩篇 73:21-26, 28）。

「〔ダビデは〕主の導きこそ、この世の一時的なすべての繁栄にまさって無限に価値があることを見た。なぜなら、主の方法は、永遠の栄光へ導く義の道に足をとどめるからである。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 2 月 3 日）

- b. 詩篇記者の悔い改めと告白の後、聖所において彼の心からどのような嘆願がわき出しましたか（詩篇 74:3, 4, 7-10）。
- c. 不信心な人々の一時的な繁栄をうらやむというよくある誘惑をまぬかれるために、わたしたちは何を悟らなくてはなりませんか（詩篇 77:1-3）。

「誘惑に負けるのは、心がぐらついて神への信頼が揺らぐときに始まる。わたしたちは、自分を完全に神に捧げる道を選ばないならば、暗闇の中にいるのである。少しでも保留するところがあれば、それはサタンが誘惑によってわたしたちを惑わそうと侵入してくる戸口を開いておくことである。わたしたちの視力をかすませて、信仰の目で神を見ないようにすることができれば、罪への障壁がなくなることを、サタンは知っている。」（祝福の山 113）

「善と悪の戦いの激しさは、救い主の時代以来すこしも衰えていない。天への道は当時と同じように今も平坦ではない。罪はすべて除かれねばならない。霊性の進歩をさまたげるような道楽趣味はやめなければならない。もし右の目または右手がつまずきの原因となっているなら、それを犠牲にしなければならない。自分の知恵を放棄して、幼児のように天国をうけ入れる気持があるであろうか。自分を義とする気持を喜んで捨てるであろうか。人からの賞賛を犠牲にするであろうか。永遠の生命という報賞は無限の価値をもっている。わたしたちは、聖霊の助けを心からもとめ、これと協力し、わたしたちの獲得すべき物の価値にふさわしい努力と犠牲を払うであろうか。」（青年への使命 44, 45）

「悪事をなすすべてのものに対して、神の律法は有罪の宣告をくだす。その声をきくまいとしても、その警告をうち消そうとしても無駄である。その声は彼を追いかけ、彼の耳に鳴りつづけ、彼の平和を減ぼす。……それは消すことのできない火で、ついに魂と肉体を焼きつくすのである。」（教育 160, 161）

#### 4. 最優先懸案事項

- a. 悔い改めと告白をもって神に立ち返った後、詩篇記者の主要な懸案事項は何でしたか(詩篇 74:18-23; 79:1)。神の子らのために、神の正義の愛するご性質を明らかにするのは何ですか。

「神は神の子らの権利にかかわるいかなる取引からも排除することはできない。誠心よりこのお方に仕えているすべての人の上に、このお方のみ手は覆いのように広げられている。だれ一人として、正義の剣をにぎったみ手を打たずに、イエスのもっともいやしい弟子を傷つけることはできない。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1883 年 12 月 20 日)

- b. 聖所を見ることによって(詩篇 76:2 および 77:13 の中で)、詩篇記者はどのように憐れみと助けを嘆願しましたか。またわたしたちはなぜこれらの言葉をこまきさせるべきなのですか(詩篇 79:8-10; 80:1, 3)。

「もしわたしたちが力強いお方の力をつかむならば、どれほど強くなれるかを考え、それからわたしたちが神の約束を主張しないがゆえにそれほど弱いかを見るとき、わたしの魂は苦悩のうちに次のように叫ぶ。『主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業を……そしりと笑い草にさせないでください』『どうしてもろもろの国民に、「彼らの神はどこにいるのか」と言わせてよいでしょうか』(ヨエル 2:17)。

わたしたちの間には、真理を公言しても、キリストと共に十字架につけられることを拒む人々が大量にいる。わたしたちの信仰の創始者は、わたしたちのために労し、苦しまれた。このお方の全生涯は、一つの長い苦勞と欠乏の光景であった。このお方はご自分に従うと公言する人々の多くがするように選ぶこともできた。地上でのご自分の日々を、安逸と豊富さのうちに過ごし、この世の人生のあらゆる喜びと楽しみをご自分のものとするもおできになった。しかし、このお方はご自身の慰めや満足をお求めにならなかった。このお方は善をなすために、他の人々を恥や苦しみや破滅から救うために生きられた。」(同上 1883 年 9 月 27 日)

「わたしたちは自分たちが光の子であることを確かめたいのである。わたしたちの贖い主であり、模範であられるお方のみ足の跡に従っていることを確かめたいのである。わたしたちの行く手には十字架が横たわっているが、わたしたちのために十字架を担ってくださったお方のために、それを取り上げ、担わないのであろうか。神に仕えることを求めているすべての人は試練に遭うようになる。しかし、わたしたちは、世から出てきて分離することに何の益があろうか、と言うのであろうか。……

起き上がらなくてはならない。さもなければ、サタンが思いを、霊的な永遠のことを熟考することから、地上の一時的なことへそらせてしまう。もしあなたが真心から求めるならば、神はすべての必要な時に恵みと力をあなたに与えようとしておられる。」(同上 1888 年 2 月 3 日)

## 5. 墮落した人類のための唯一の希望

- a. なぜわたしたちは疑いによって困惑した詩篇記者の懸念にあずかるべきなのか (詩篇 119:53, 126; 伝道の書 12:14)。

「ある事柄のためには断食と祈祷を勧めるし、またそれが適切である。これは神の御手の中にあつて心を清め、真理を受け入れやすい精神状態にする手段である。我々は祈りの応答を得るが、それは我々が神の御前に心をへりくだらせるからである。」(食事と食物に関する勧告 172)

- b. わたしたちは、詩篇 102:19, 20 に記されているように聖所のみ座から見下ろしておられるお方に自分たちの嘆願をなしたとき、何をすべきですか (黙示録 3:20; ヘブル 12:25)。わたしたちが聖霊の感化力に対して心をかたくなにすると、何が起きますか。

「あなたがあわれみのメッセージを聞くことを拒むたびに、あなたは不信を強めているのである。あなたがキリストに心の戸を開かないそのたびに、あなたは、ますます、語っておられるお方の声を聞こうとしなくなる。」(キリストの実物教訓 217)

- c. 悪に対する使徒パウロの苦闘から、わたしたちはどのような教訓を学ぶべきですか (コリント第一 9:24-27)。

## 個人的な復習問題

- a. すべての人が自分の運命をいずれかに選ばなければならないただ二つの可能性は何ですか。
- b. どの考えが、詩篇記者をほとんど破滅に陥れるところでしたか。
- c. いつ、どこで、彼は自分の過ちに目覚めましたか。彼はどのような告白をしましたか。
- d. 悔い改めの後、詩篇記者の主な懸念は何でしたか。なぜわたしたちは彼の懸念にあずかるべきなのか。
- e. 使徒パウロは罪に対する自分の苦闘をどのように描写しましたか。墮落した人類のための唯一の希望は何ですか。

## 実物教訓である宮

「それであなたがたは心をつくし、精神をつくしてあなたがたの神、主を求めなさい。たつて主なる神の聖所を建て」（歴代志上 22:19）

「ダビデが長い間心に抱いてきた主の宮を建てる計画は、ソロモンによって賢明に実行された。」（ビュー・アンド・ヘルド 1905年11月2日）

推奨文献： 国と指導者上巻 20-26

日曜日

5月8日

### 1. ダビデ王の高尚な願い

- a. ダビデ王が、自分の堂々とした王宮を考えていたとき、彼の計画の中でどの考えが一番になりましたか（サムエル記下 7:2）。
- b. 神はダビデ王にどのようなメッセージを送られましたか（歴代志上 22:8-10; 28:5, 6）。どのような意味において、ダビデは宮の建設に貢献する特権が与えられましたか。

「ダビデは、神の家の資材を集める価値が自分にないことを自覚していたが、全国をつかさたちが喜んで彼にこたえて忠誠を表明し、心から彼らのたからをエホバにささげて、神のご用に献身したので、喜びに満たされた。しかし、神の民にこうした精神を与えたのは、神だけであった。人間にではなくて、神に栄えを帰さなければならぬ。民に地の富を与えたのは神であった。そして、彼らの宝を喜んで神殿のためにささげさせたのは、神の霊であった。それは、すべて主のものであった。もし神の愛が人々の心を感動させなかったならば、王の努力もむなしく、神殿は建築されなかったことであろう。」（人類のあけぼの下巻 466）

## 2. 建物のための賢明な計画

- a. 宮の建物のためにどの場所が選ばれましたか(歴代志下 3:1 (創世記 22:2 参照); イザヤ 8:18; 28:16)。

「神殿が建てられた場所は、昔から神聖な場所とされていた。信仰の父アブラハムが、エホバの命令に従って、彼のひとり子を喜んで献げる精神をあらわしたのは、ここであった。神は、ここで、アブラハムに神の祝福の契約を更新された。それには、至高者のみ子の犠牲によって、人類が救済されるという輝かしいメシヤの約束が含まれていた(創世記 22:9, 16:18 参照)。また、ダビデが滅ぼす天使の復讐のつるぎをとどめるために、燔祭と酬恩祭を献げ、神がそれに天から火を下して答えられたのも、ここであった(歴代志上 21 章参照)。そして、エホバの礼拝者たちは、もう一度ここで神のみ前に出て、神に対する彼らの忠誠の誓いを更新するのであった。」(国と指導者上巻 13, 14)

- b. ソロモン王は、ツロの王ヒラムからどのような助けを受けましたか(列王記上 5:1-9)。
- c. 宮の建設にかかわった人の数はおよそどれくらいですか(列王記上 5:15, 16)。その働きを完成するのに、どれくらいの期間がかかりましたか(列王記上 6:1, 38)。
- d. 建物のために、石はどのように、どこで整えられましたか(列王記上 6:7)。神の家は最高の敬神の念をもって建てられたという事実からわたしたちはどのような教訓を学ぶべきですか。

「神のみ前にくすすべての者の態度は、けんそんで敬神深いものでなければならぬ。われわれは、イエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神にむかって、あたかも同等か、あるいは目下のものに話しかけるような言葉を用いる人がある。また、神の家の中において、地上の王たちの謁見室では決してしないような不謹慎な態度をとる人がある。これらの人々は、自分が今、セラビムたちが賛美をささげ、み使いたちもそのみ前にあつて翼をもって顔をおおう神のみ前にあるということをおぼえていなければならない。」(人類のあけぼの上巻 286)

### 3. 敬神における教訓

- a. 宮の献堂のときのソロモンの祈りを要約し、話し合いなさい（歴代志下 6:21-23）。  
天の神について、比類のないことは何ですか。

「ソロモンによって宮の献堂式で捧げられた祈りは、最も気高い経験に最も深い謙遜がまじった心情の表明であった。……

〔ソロモンは民に〕天の神は、異教の神々と違って、自分たちのために建てられた宮に納まるような方ではなく、真の神はご自分の礼拝のために献堂された家にご自分の民が集まるとき、ご自分の御霊によって彼らと会って下さることを語った。主は、神の民の家庭で、あるいは彼らがどこにしようと、彼らを訪れて下さり、ご自分のいつくしみ深さの特別な啓示によって、彼らを元気づけて下さる。そしてどの場所でも、神の民は自分たちの天父を礼拝する特権を持つのである。」（ビュー・アソド・ハルト 1905 年 11 月 30 日）

- b. ソロモンが祈りを終えたとき、何が起こりましたか（歴代志下 7:1-3）。

「この聖所の美しさと壮麗さを描写することは不可能である。……

宮の庭に賛美が鳴り響いているとき、神の栄光の雲が、かつて荒野の幕屋を満たしたように、その建物を取り囲んだ。」（同上 1905 年 11 月 9 日）

- c. 神のみ前でわたしたちはどのように敬神を示すべきですか（ハバクク 2:20 ; (創世記 28:16, 17; マタイ 18:20 参照))。わたしたちはどの模範を深く考慮すべきですか（出エジプト 3:4, 5; ヨシュア 5:13-15）。

「神の家はしばしば、安息日を信じる者の子らによって神聖が汚され、安息日が犯される。ある場合には、彼らは家の周りを走り、遊び、話し、聖徒たちが聖潔の麗しさのうちに神を礼拝すべき集会そのものにおいて、悪い気質を表すことさえ許されている。そして神聖であるべき場所、すなわち聖なる静寂が支配しているべき場所であり、完全な秩序と整然さと謙遜があるべき場所が、完全なバビロン『混乱』と化してしまう。これだけで、神のご不興をもたらし、わたしたちの集会からこのお方のご臨在を締め出すのに十分である。」（家庭の教育 590）

#### 4. 聖所におられるキリスト

- a. 聖所の建物の隅のかしら石によって象徴されているのは、だれですか（詩篇 118:22; イザヤ 28:16; マタイ 21:42）。

「ソロモンの神殿が建てられた時、壁と土台のための巨大な石は全部石切場で用意された。それらの石が建築場へはこんでこられると、手を加えないでそのまま用いられ、職人たちはその場所にすえつけさえすればよかった。ところがここに土台として用いるために、異常に大きく特殊な形をした一つの石がはこばれてきた。しかし職人たちはその石の場所をみつけることができないので、これを受け入れようとしなかった。それが用いられないでじゃまになっているのは、彼らにとって迷惑であった。長い間それは捨てられた石であった。しかし建築家たちが隅のおや石を据える段になると、この特別な場所を占め、その上にかかる巨大な重みに耐えるのに十分な大きさと力と独特な形をした石をみつけるために、彼らは長い間さがした。この重要な場所のために選択を誤れば、建物全体の安全がおびやかされるのであった。彼らは、太陽や霜や嵐の作用に耐えることのできる石をさがし出さねばならなかった。何度かいくつかの石が選ばれたが、巨大な重さの圧力の下にこなごなにくだけた。またほかのものは大気の突然の変化のテストに耐えられなかった。しかし最後に、長い間捨てられていたあの石に注意が向けられた。それは空気と太陽と嵐にさらされながら、すこしの割れ目もみせていなかった。建築家たちはこの石を検査した。それはあらゆるテストに合格し、ただ一つのテストが残った。もしこの石が激しい圧力のテストに耐えることができたなら隅のおや石として受け入れようと、彼らはきめた。テストが行なわれた。石は受け入れられ、指定された場所へはこばれ、ぴったりと合った。」（各時代の希望下巻 41, 42）

- b. 世界は平和と安全を切望しています（テサロニケ第一 5:3）。どこでのみ、平和と安全を見出すことができますか（ヨハネ 14:27; エペソ 2:13, 14）。

「神は、限りない知恵をもって、隅のおや石をえらび、それをご自分で据えられた。神はそれを『堅くすえた隅の石』と呼ばれた。全世界の人々が彼らの重荷と不幸をその上にのせても、この石はそれらの全部にもちこたえるのである。彼らがその上に築いても絶対に安全である。キリストは『試みを経た石』である。主は、ご自分に信頼する者を決して失望させられない。……不義の心は、キリストのうちに救いをみいだした。主は確かな基礎である。主によりたのむ者はみな絶対に安全である。」（同上 43）

## 5. 品性の宮を建設する

- a. 宮は地上の神の教会を象徴し、またわたしたちはこのお方の家を建てる働きにあずかるように召されていることから、どのような材料をもって建設すべきですか(コリント第一 3:12; エペソ 2:20-22)。

「主のための美しい建物へと成長したい人は、存在のすべての力を培わなければならない。品性が均整の取れた発達をとげることができるのは、ただタラントを正しく用いることによつてのみである。こうしてわたしたちは神のみ言葉のうちに金や銀や宝石―神の清めの火のテストに耐える材料―として表されているものを基礎へ持ってくるのである。わたしたちの品性建設において、キリストがわたしたちの模範である。」(家庭の教育 163)

- b. 救いの計画において、わたしたちはどこに神の道を見ることができますか(詩篇 77:13)。なぜ預言の霊は聖所の奉仕を研究する重要性を強調しているのですか。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によつてはつきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。ひとりびとりの魂は、救われるか、滅びるか、そのどちらかなのである。各自は、今、神に裁かれようとしている。」(各時代の大争闘下巻 222)

## 個人的な復習問題

- a. ダビデ王のもっとも熱烈な願いの一つは何でしたか。なぜ主は彼が自分の建設の計画を実行することをお許しにならなかったのですか
- b. エルサレムの宮のために選ばれた山の名前は何でしたか。そしてどのような理由のために、その場所が建物のために選ばれたのですか。
- c. 建設者たちはその働きにおいてどれほど大きな敬神の念を示しましたか。このほか聖書にどのような敬神の例がありますか。
- d. ソロモンの献堂の祈りを要約しなさい。
- e. わたしたちが建設者として、神の宮である教会の建設を助けるべき材料をあげなさい。

## 年ごとの祭り：過越

「正月の十四日の夕は主の過越の祭である。」(レビ記 23:5)

「年ごとの祭礼には、過越の祭りと五旬節(ペンテコステ)と仮庵の祭りの三つがあつた。……過越の祭りに出席する人が一番多かった。……過越の祭りの時期は三月の終りか四月の上旬に当たっていた」(各時代の希望上巻 70, 71)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 176-187

日曜日

5月15日

### 1. はじめの年ごとの祭り

- a. 3月の終りか4月の上旬に当たっていたアビブの月の14日に、何が行われましたか(出エジプト 12:5-7, 11; レビ記 23:5)。
- b. 過去に将来に、過越の祭りは、どの出来事を指し示していましたか(出エジプト 12:14, 17; 13:3, 4; ヨハネ 19:14, 15)。霊的な意味を説明しなさい(コリント 第一 5:7 下句)

「その月の14日の夕方に、過越の祭りが行なわれた。」(人類のあけぼの下巻 182)

「過越の祭りは記念の祭りであると共に、また、一象徴的な祭りでもあった。それはエジプトからの解放を指示していたばかりでなく、キリストがその民を罪の束縛から自由にして成就される、さらに驚くべき解放をも表示していた。犠牲の小羊は、われわれの救いの唯一の希望である『神の小羊』をあらわしている。」(同上上巻 318)

「小羊は苦菜と共に食べなければならなかったが、それはエジプトでの奴隷の苦しさを示していた。そのようにわれわれがキリストを食べるとき、われわれは心のうちで自分の犯した罪の悔い改めをしていなければならない。」(同上 319)

## 2. 象徴的な意味

- a. どのような意味において、キリストはわたしたちの過越となって下さいましたか（ヨハネ 6:51-58, 63）。

「小羊は、そのまま調理され、骨は一本も折られなかったが、そのようにわれわれのために死なれることになっていた神の小羊の骨は、一本でも折れてはならなかった（ヨハネ 19:36 参照）。こうして、キリストの犠牲の完全さが示されていた。

肉は、食べなければならなかった。われわれは、罪がゆるされるために、キリストを信じるというだけでは、まだ十分ではない。われわれはみ言葉を通して、キリストから来る霊的な力と栄養とを、信仰によって絶えず受けていなければならない。……イエスは、父の律法を受け入れ、その生活において律法の原則を実行し、心の中にその精神と恵みの力をあらわされた。ヨハネは言っている。『言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた』（ヨハネ 1:14）。キリストに従う者は、彼の経験にあずかる者でなければならない。彼らは神の言葉を受け入れ、消化し、それが彼らの生活と行為を動機づける力となるようにしなければならない。彼らは、キリストの力によって彼のかたちに変えられ、神のご性質を反映しなければならない。彼らは、神の子の肉を食べ、血を飲まなければならない。そうしなければ、彼らの中に生命はない。キリストの精神と働きが彼の弟子たちの精神となり、働きとなるべきである。」（人類のあけぼの上巻 318, 319）

- b. 過越の祭りの後に何が続きましたか（出エジプト 12:15-18; レビ記 23:6）。

「過越の祭りに引き続いて、七日間の種入れぬパンの祭りがあった。」（同上下巻 182）

「種入れぬパンを用いたことにも深い意味があった。それは過越の祭りのさだめに明らかにしるされており、ユダヤ人も実際に厳格に守っていたので、その祭りの期間中、彼らの家でパン種をみることは絶対になかった。同じようにキリストから生命と栄養を受ける者はみな、罪のパン種を取り除かなければならない。」（同上上巻 320）

- c. どのような意味において、神はわたしたちがパン種のない新しい粉のかたまりになってほしいと望んでおられますか（コリント第一 5:7 上旬; ヨハネ第一 5:18; ユダ 24）。

### 3. パン種のない／罪から救出された

- a. 7日の間、ユダヤ人が発酵したものを何一つ食べなかったこと、またすべてのパン種が彼らの家から取り除かれていたことによって、何が象徴されていましたか（出エジプト 12:19, 20）。

「種入れぬパンを用いたことにも深い意味があった。……キリストから生命と栄養を受ける者はみな、罪のパン種を取り除かなければならない。」（人類のあけぼの上巻 320）

「種入れぬパン……は、救い主を表わした。」（各時代の希望上巻 72）

- b. パン種が罪の象徴として考えられている例を新約聖書から挙げなさい（マタイ 16:6, 12; ガラテヤ 5:9; コリント第一 5:8）。

「ユダヤ人は、モーセの時代以来、過越節の期間には家の中からパン種を除く習慣があった。こうして彼らはパン種を罪の型と見なすことを教えられていた。」（同上中巻 171）

- c. キリストは新約に対応するものを導入することによって、どのように過越の祭りを更新なさいましたか（マタイ 26:18-20, 26-29）。

「弟子たちと過越の食事をされたとき、主は、過越節の代りに、主の大いなる犠牲の記念となる式をお定めになった。ユダヤ人の国民的祭典は永久に過ぎ去るのであった。そしてキリストがお定めになった式が、どの国どの時代においても弟子たちによって守られるのであった。」

過越節は、イスラエルがエジプトの奴隷状態から救済された記念として定められた。毎年、子供たちがこの儀式的意味をたずねるときに、その歴史をくりかえして聞かせるようにと、神は指示された。こうしてあのふしぎな救済がすべての人たちの心に生きつづけるのであった。聖さん式は、キリストの死の結果達成された大いなる救済を記念するために与えられたのであった。」（同上下巻 130, 131）

- d. そうであれば、なぜ旧約の過越の祭りはもはや守るべきではないのですか（ヘブル 9:28; 10:8-10）。

「わたしたちの偉大な大祭司は、わたしたちの救いのために唯一価値のある犠牲を捧げられた。このお方が十字架上でご自身を捧げられたとき、民の罪のための完全な贖罪がなされたのである。」（彼を掲げよ 319）

#### 4. 主の聖餐

##### a. 主の聖餐は、過去に将来に、どの出来事を指していますか (コリント第一 11:26)。

「救い主がカルバリーでおなくなりになったときに、過越の祭りの意義はもうなくなり、過越の祭りが象徴していた同じ事件の記念として、主の聖餐式が制定された。」(人類のあけぼの下巻 182)

「聖さん式はキリストの再臨をさし示している。それはこの望みを弟子たちの心に生き生きと保つためであった。キリストの死を記念するために共に集まったときにはいつでも、彼らは、主が『杯を取り、感謝して彼らに与え……、「みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。あなたがたに言うておく。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲むその日までは、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない』」と言われたあの時のことを語り合うのであった (マタイ 26:27-29)。苦難のうちにあるとき、彼らは主の再臨という望みに慰めを見いだした。」(各時代の希望下巻 139)

「主が力と栄光のうちにふたたびおいでになるまで、この〔主の聖餐の〕儀式は守られる。」(同上 131)

##### b. 主の聖餐の前に、なぜ主は洗足の儀式を加えられたのですか (ヨハネ 13:12-14, 34, 35)。

「この〔洗足の〕儀式は、人間の知力よりは、その心に訴えるところが大きい。彼の道徳的、霊的性質はそれを必要としている。もしご自分の弟子たちがこれを必要としていなかったなら、最後の晩餐に関連し、また含まれるキリストの最後に制定された儀式として、それを彼らに残されることはなかったであろう。ご自分の弟子たちにまさに必要としていた儀式—それまで彼らが重要なものとして携わってきたが、福音を受け入れることによってもはや何の効力もない儀式や式典から彼らを解き放つ役目を果たすもの—を残すのが、このお方の願いであった。これらの儀式を続けることは、エホバに対する侮辱となるのであった。単に聖餐式のときにキリストの体を食べ、血を飲むばかりでなく、魂の飢えを満たすために日ごとに命のパンにあずかることは、このお方のみ言葉を受け入れ、このお方のみ旨をなすことであった。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1898 年 6 月 14 日)

## 5. 初穂

- a. 種入れぬパンの祭りの第二日目に行われた儀式を描写しなさい（レビ記 23:10, 11）。

「過越の祭りの後、種入れぬパンの祭礼が7日間つづいた。この祭の二日目に、その年の収穫の初穂である大麦の束が主の前に捧げられた。」（各時代の希望上巻 72）

- b. 主の前に揺り動かされた大麦の束（収穫の初穂）によって何が象徴されていましたか（コリント第一 15:20, 23）。

「キリストは眠った者の初穂として死人の中からよみがえられた。彼は揺祭のたばの本体であって、そのよみがえりは揺祭のたばが主の前にささげられる日に起った。」（同上下巻 316）

- c. 初穂の束によって、ほかにだれが象徴されていますか（マタイ 27:52, 53; ヤコブ 1:18; 黙示録 14:4）。

「初穂なるキリストは、神の王国に集められる霊的大収穫の象徴であつた。キリストのよみがえりはすべての死せる義人のよみがえりの型であり保証である。」（同上 316）

## 個人的な復習問題

- a. 過越の祭りの二重の意味は何ですか。
- b. 種入れぬパンは何を象徴していますか。
- c. 過越の祭りの間、イスラエル人の家から、発酵したいかなるものも取り除くことには、どのような象徴的な意味がありますか。
- d. 新約時代の過越の祭りに対応するものは何ですか。
- e. 種入れぬパンの祭りの二日目に主の前に揺り動かされた大麦の束によって、何が象徴されていましたか。

## 年ごとの祭り：ペンテコステ

「あなたの神、主のために七週の祭を行い、……自発の供え物をささげなければならない。」(申命記 16:10)

「初穂をささげてから 50 日めは、ペンテコステであった。それは、また、収穫の祭り、または 7 週の祭りとも呼ばれた。」(人類のあけぼの下巻 182)

推奨文献： 患難から栄光へ上巻 31-40

日曜日

5月22日

### 1. 第二の年ごとの祭り

- a. ペンテコステの祭りは、ほかにどのような名で知られていましたか (出エジプト 23:16 上旬 ; 34:22 上旬)
- b. その一日の祭りは、いつ行われましたか (レビ記 23:15, 16, 21)。年ごとの祭りは、どのような目的で定められていましたか。

「年ごとの祭りが定められ、そのときには、国中の男子はすべて感謝のささげ物と収穫物の初穂をたずさえて主の前に集まるのであった。こうした規則の目的が明らかにされた。それは単なる専横的な主権の発動から出たものではなかった。すべてはイスラエルの益のために与えられたのであった。『あなたがたは、わたしに対して聖なる民とならなければならない』。すなわち、聖なる神から認められるのにふさわしい者とならねばならないと、主は言われた (出エジプト 22:31)。」(人類のあけぼの上巻 363, 364)

- c. 主の前に捧げられた二個のパンには、どのような意味がありましたか。二個のパンのほかに何が捧げられましたか (レビ記 23:17-20)。

## 2. 儀式の意味

- a. 新約時代の下で、ペンテコステのときに捧げられる二個のパンに対応するものは何ですか (ヨハネ 6:48, 63; 14:16, 18)。

「荒野のヘブル人を導き、天からのパンで彼らを日々養われたのはキリストご自身であった。この食物は天の真のパンの型であった。」(各時代の希望中巻 132)

「われわれの肉体の生命が食物でささえられるように、われわれの霊的生命は、神のみことばによってささえられる。だからどの魂も、神のみことばから自分のためにいのちを受けるのである。栄養をとるには自分が食べねばならないように、われわれは、自分自身でみことばを受け入れねばならない。われわれは、みことばを他人の頭脳を仲介として受けるだけであってはならない。神のみことばをささねることができるように、聖霊の助けを神に求めながら聖書を注意深く研究しなければならない。一節をとりあげて、神がわれわれのためにその一節のなかにおかれた思想を確かめる仕事に頭脳を集中しなければならない。われわれは、その思想がわれわれ自身のものとなるまで、それについて考えをめぐらさねばならない。その時われわれは、『主が言われたこと』を知るのである。」(同上 140)

- b. わたしたちはどのようにして神性にあずかる者となりますか (ペテロ第二 1:4; ヨハネ 14:17; ヨハネ第一 3:24)。

「信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたちにかたどられる。『神の口から出る一つ一つの言で生きる』というのは、このことである (マタイ 4:4)。これが天からくだるパンを食べることである。」(同上 141)

- c. 収穫を刈り取るとき、どのような貧しい人のための備えが考慮されなければなりませんでしたか (レビ記 23:22)。

### 3. 象徴が成就する

- a. キリストが昇天してからペンテコステの日までの 10 日間、初期の弟子たちは何をしましたか（使徒行伝 1:12-14）。

「弟子たちは……罪人をキリストに導くような言葉を語るのにふさわしくなるように、とりわけ熱心に祈った。意見の不一致や優位を望む心をすべて捨て、クリスチャンの交わりの中で互いに親密になった。……」

こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。弟子たちは、福音が世に宣べ伝えられなければならないことを悟って、キリストが約束された力を求めたのである。」（患難から栄光へ上巻 31）

- b. キリストの復活の後、50 日後に何が起こりましたか（使徒行伝 2:1-4）。

「み霊は、祈りながら待っていた弟子たちに臨み、ひとりびとりの心を十分に満たされた。無限なる神が、力をもって教会にご自身を現されたのである。」（同上 32）

- c. 満ちみちた聖霊が注がれた即座の結果は何でしたか（使徒行伝 2:5-8）。

「〔エルサレム〕にはあらゆる国語を話す人々が集まっていた。このように言葉がいろいろ異なっていたことは、福音宣伝のためには非常な妨げとなったはずであった。そこで神は、不思議な方法で弟子たちの不足を補われたのである。聖霊は彼らが一生かかってもなし遂げられないことを彼らのためになさった。弟子たちは今、自分たちの働きかけている人々の言語を正確に話して、福音の真理を広く宣伝することができた。この奇跡的な賜物は、彼らの任務が天の認印を押されたものであることを世に示す確かな証拠であった。この時から弟子たちの言葉は、母国語で語ろうと、外国語で語ろうと、純粹で単純で正確であった。」（同上 34, 35）

- d. ペテロはこの常でない出来事をどのように説明しましたか（使徒行伝 2:14-18）。

## 4. 著しい収穫

## a. ペンテコステの日が起こった感動的な光景を描写しなさい（使徒行伝 2:38-41）。

「〔ペンテコステの〕この光景はまことに興味深い。見よ、人々は弟子たちが、イエスにある真理をそのままあかしするのを聞こうと、四方から集まってくる。彼らは会堂いっぱい押しかけてくる。祭司や役人たちはまだ、敵意のある暗い顔をしかめてそこにいるが、彼らの心はなおもキリストに対する憎しみに満ち、その手は、この世のあがない主を十字架につけた時の、殺害行為からきよめられていなかった。彼らは使徒たちが強力な迫害や虐殺の手を恐れて、おびえているだろうと思っていた。ところが、彼らは、使徒たちがすべての恐れを乗り越えて、み霊に満たされ、力強くナザレのイエスの神性を宣べ伝えているさまを見るのである。彼らは使徒たちが、ごく最近、屈辱を受け、嘲笑され、残酷な手で打たれ、十字架につけられたかたが、いのちの君であって、今や神の右にまで高められていることを、勇敢に宣べ伝えているのを聞く。

使徒たちに耳を傾けていた人々の中には、キリストを罪と死に陥れることに一役買った者もいた。彼らの声は、主を十字架につけよと叫ぶ群衆の声に混じっていた。

.....

いま、彼らは、十字架につけられたのは神のみ子であったという弟子たちの言葉を聞いている。祭司や役人たちは震えおののいた。人々は罪の自覚と苦悩におそわれた。『人々はこれを聞いて、強く心を刺され、ペテロやほかの使徒たちに、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と言った』（使徒行伝 2:37）。弟子たちの言葉を聞いていた人々の中に信心深いユダヤ人もいた。彼らは真心から信じていた。語る者の言葉に力が伴い、イエスこそ本当にメシヤであるということを彼らは得心した。』（患難から栄光へ上巻 37, 38）

## b. この栄光の歴史が繰り返されるためには、何が必要ですか（ヨエル 2:23; ゼカリヤ 10:1）。

「われわれがキリストの奉仕に完全に、心から献身するとき、神はみたまをあふれるばかりに注いでくださり、その事実を認めてくださる。しかし、教会の大部分が神の共労者になっていなければ、これは認められない。」（クリスチャンの奉仕 369）

## 5. 力のための必要条件

- a. 後の雨の下で聖霊の注ぎを受ける祝福された人々を特徴づけているのは何ですか (コリント第一 1:8)。

「すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、『慰め』にあずかることができない。……神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。」(初代文集 150)

- b. 満ちみちた聖霊を与えられるためには、教会員の間でどのような種類の関係を持たなければなりません。また何がわたしたちの主要な優先事項とならなければなりません (使徒行伝 4:32; コリント第一 1:9, 10; ペリピ 2:3, 4)。

「御霊が注がれたのは、弟子たちが完全な一致に至り、もはや最高位を求めて争わなくなった後であることに注意しなさい。彼らは一致していた。すべての相違は捨て去られていた。そして御霊が与えられた後に彼らの担った証は同じであった。次の言葉に注目しなさい。〔使徒行伝 4:32 引用〕。罪人が生きることができるように死なれたお方の御霊が信徒たちの全会衆を活気づけた。

弟子たちは自分自身のために祝福を求めたのではなかった。彼らは魂の重荷を感じていた。福音は地の果てまで伝えられなければならなかった。そこで彼らはキリストが約束された力の賦与を求めたのである。そのとき、御霊が注がれ、何千もの人が一日のうちに改心した。

今もそうなのである。クリスチャンはすべての不和を取り除き、失われた人々を救うために神に献身しようではないか。信仰のうちに約束された祝福を求めなさい。そうすれば、それはもたらされる。」(教会への証 8 巻 20, 21)

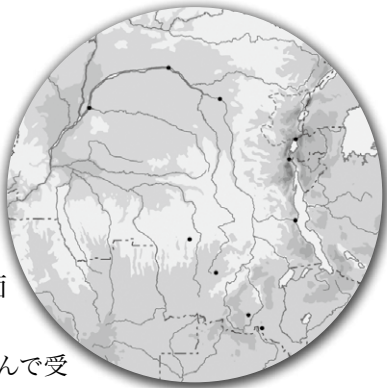
## 個人的な復習問題

- a. ユダヤ人の間の第二の年ごとの祭りは何でしたか。  
b. 新約において二個のパンに対応するものは何ですか。  
c. キリストの復活後、ペンテコステの祭りは、どのように成就しましたか。  
d. ペテロは、このときの聖霊の降下をどのように説明しましたか。  
e. ペンテコステの経験は、どのように、いつ繰り返されますか。

## 第一安息日献金

コンゴ民主共和国 (DRC) の北キブのために

北キブは、コンゴ民主共和国 (DRC) の県の一つで、国は中央アフリカに位置しています。この県は、DRC の東に位置していて、ルワンダやブルンジ共和国に面しています。



改革のメッセージは、コンゴの人々に喜んで受け入れられてきました。2006 年に、ルワンダの信徒たちが北キブに来て、パンフレットを配ったり、聖書研究を行ったりしました。この結果、この地域での目覚めが起きました。

一年後に、12 人の魂がバプテスマによって教会に連なりました。現在はバプテスマを受けた教会員が 400 名います。この地域で働きは着実に発展し続けています。

悲しいことに、わたしたちの兄弟には礼拝をするための場所がなく、主のための礼拝堂を建てたいという大きな願いはありますが、この地方で打ち続く戦争のために、また信徒の大多数がさまざまな私的、非政府組織を通じて与えられる寄付金によって生き延びているために、資金的な可能性がありません。

このようなわけで、世界中の兄弟姉妹、友人方をお願いいたします。何よりも祈るのは、神が民の心に印象を与えてくださり、このプロジェクトのための献金が十分ありますように、主が栄光を受けられますように、そして救いのメッセージがすべての部族、民族、国語に伝えられますように、ということです。

みなさんのこの建設事業のための惜しみない献金を、あらかじめ感謝いたします。

—マヌエル・ヘンダ、アフリカ地域の第二書記—

## 年ごとの祭り：贖罪の日

「特にその7月の10日は贖罪の日である。」（レビ記 23:27）

「年に一度、大贖罪の日に〔大〕祭司は聖所のきよめのために至聖所にはいった。」  
（人類のあけぼの上巻 419）

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 130-137

日曜日

5月29日

### 1. ラッパの祭りと仮庵の祭り

- a. 贖罪の日の前にどの祭りがありましたか（レビ記 23:24, 25; 民数記 29:1）。
- b. 贖罪の日の後かつ収穫が刈り取られた後に、どの祭りがありましたか（レビ記 23:34-36, 40-43; 申命記 16:13-15）。

「神に仕えて、お互いを力づけ励まし合うために、共に交わる特権を怠るときに、われわれは損失をこうむる。神の言葉の真理は、われわれの心の中で、その活気と重要性を失ってしまう。われわれの心は、清めの力によって、啓発覚醒されなくなり、霊的に低下する。……われわれは、みな、ひとりの天の父の子供たちで、お互いにその幸福は他に依存している。神の要求と人類の要求が、われわれに負わされている。われわれの性質の社交的方面を正しく啓発させることによって、われわれは兄弟たちに同情を寄せるようになる。そして、他を祝福しようと努力することによって、われわれは幸福になるのである。

仮庵の祭りは、ただ単に記念であるだけでなく、象徴でもあった。それは、荒野の旅をふり返っていただけでなくて、収穫の祭りと同様に、大いなる日の最後の収穫を予表していた。収穫の主は、そのとき、刈り入れ人をつかわして、毒麦をたばねて火に焼き、麦は倉に収める。」（人類のあけぼの下巻 184）

## 2. 必要な区別：許された罪と除去された罪

- a. 日ごとの贖罪を通して何が成し遂げられましたか（出エジプト 29:39; レビ記 4:13-20）。

「一年間にわたってささげられた罪祭によって、罪人に代わるものが受け入れられてきた。だが、いけにえの血が罪に対する完全な贖いを果たしたのではなかった。それは、ただ、罪が聖所に移される手段を提供したにすぎない。罪人は血をささげることによって、律法の権威を認め、律法に違反した罪を告白し、世の罪を除くおかたへの信仰を表明した。だが、彼は律法の宣告から完全に解放されたのではなかった。」（人類のあけぼの上巻 420）

「罪人の失われた生命を表わす血、すなわち犠牲が彼の罪を負って流したものが、祭司によって聖所の中に運ばれ、幕の前に注がれた。幕の後ろには、罪人が犯したその律法を入れた箱があった。この儀式において、罪は、血によって、象徴的に聖所に移された。」（各時代の斗争閣下巻 131）

- b. わたしたちは罪が許されることと除去されることは、二つの異なることだということがどのように分かりますか（エゼキエル 18:24; マタイ 18:32-35）。

「型において、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。」（人類のあけぼの上巻 422）

「わたしたちの真の立場、そして安全である唯一の立場は、神のみ前の罪の悔い改めと告白の立場である。自分たちは罪人であることを感じて、わたしたちは、不義を許し、わたしたちに義を着せることのおできになるわたしたちの主イエス・キリストを信じる信仰を持つ。慰めの時が主のみ前から来るとき、そのとき悔い改めた魂、すなわちキリストの恵みを受けて、小羊の血を通して勝利した魂の罪は、天の記録から取り除かれ、アザゼルのやぎであり、罪の創始者であるサタンの上に置かれ、それはもはや彼に対して永遠に覚えられることはない。勝利者の罪は記録の書から除去されるが、彼らの名は命の書に残るのである。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 5 月 16 日）

## 3. 贖罪の日

- a. 聖所から罪を取り除く贖罪の日はいつありましたか（レビ記 23:27）。
- b. 民の罪は日ごとの贖罪において許されたにもかかわらず、彼らの罪はまだ存在しており、聖所に累積していました。年に一度、象徴的に、過去の罪の存在をなくすために、どの儀式が行われましたか（レビ記 16:16）。
- c. 贖罪の日に、民と聖所から罪を取り除くために、大祭司のところへ連れてこられた二匹のやぎをもって、どの儀式が行われましたか（レビ記 16:7-10）。
- d. 民のために贖罪をなす前に、大祭司は何をしなければなりませんでしたか（レビ記 16:11）。
- e. 罪祭のやぎを用いる手順は、どうでしたか（レビ記 16:15-19）。やぎはだれを象徴していましたか（ヨハネ 19:13-15; コリント第一 15:3）。

「主のためのくじに当たったやぎは、民のための罪祭としてほふられた。そして、大祭司は、その血を幕の中に携えていき、贖罪所の上と贖罪所の前に注がなければならなかった。血は、幕の前の香壇にも注がなければならなかった。」（各時代の太閤下巻 132）

- f. 「イスラエルの人々の汚れ」から聖所が清められるとすぐに、大祭司は取り除かれたばかりの罪をどうしましたか（レビ記 16:20-22）。

## 4. 聖所の清め

- a. 先立つ 10 日間のラッパの音は (民数記 29:1)、どの来るべき経験に民の注意を向けさせましたか。すべての人は贖罪の日に当然何をすることが期待されていたか (レビ記 16:29, 30; 23:27, 32)。
- b. その大いなる日に魂を悩まさない人々には何が起こりましたか (レビ記 23:29, 30)。真理の知識を受けた後に、故意に罪を犯す人々には何が起こりますか (ヘブル 10:26-31)。

「罪にとって、それがどこにみいだされようと、『わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である』 (ヘブル 12:29)。神のみたまは、その力に服するすべての者のうちにあって、罪を焼きつくす。しかしもし人が罪に執着するなら、その人は罪と一体となる。そのとき罪を滅ぼす神の栄光は、当然その人も滅ぼしてしまうのである。』(各時代の希望上巻 110)

- c. 昔の贖罪の日は何を象徴していましたか (箴言 16:6; ヘブル 9:11-14, 25-28)。

「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。

大いなる最後の報いの日に、死者は、『そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれ』る (黙示録 20:12)。このとき、真に悔い改めたすべての者の罪は、キリストの贖罪の血によって、天の書物から消される。こうして、聖所から罪の記録が除かれ、きよめられるのである。象徴においては、この大いなる贖罪のみわざ、つまり、罪を消し去ることは、贖罪の日のつとめによってあらわされた。すなわち、地上の聖所を汚していた罪を除いてきよめることは、罪祭の血によってなしとげられた。

最終的な贖罪において、真に悔い改めた者の罪は、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなるように、象徴では罪は荒野に追いやりられ、会衆から永遠に切り離された。」(人類のあけぼの上巻 422, 423)

## 5. 命か死か量りの上に

- a. (i) レビ記 16:21 のアザゼルのやぎと、(ii) 黙示録 20:1-3 に描写されたサタンの間にはどのような類似点がありますか

「サタンは、罪の創始者であり、神のみ子の死を招いたあらゆる罪の直接の扇動者であるから、正義は、サタンが最後の刑罰を受けることを要求する。」(人類のあけぼの上巻 423)

- b. 罪と罪人の滅びをまぬかれるために、どの警告がわたしたちの助けとなりますか(箴言 16:3; 使徒行伝 3:19)。偽りの悔い改めの例を挙げなさい(コリント第二 7:10; サムエル記上 15:24; マタイ 27:3, 4)。

「神はあなたを敵のもっともらしい策略に陥らないよう守るために、あなたの周りの防壁として証のかきねを立ててくださったが、あなたはそれらをみな破って、自分の傾向に従うためにそれらの上を踏みつけていく。あなたの罪に対する悲しみは、昔自分たちの悲しみのために衣服は裂いたが、自分たちの心を悩ませなかった人々の悲しみのようである。あなたは何が罪であるかという自覚を正してこなかった。思想や行動の不純な忌むべき性質をあなたは感じてこなかった。あなたの思いは肉の思いで、しかもほとんど絶え間なくそうである。もしあなたが本当に自分の罪を悲しんでいたなら、もしあなたが本当に自分の悪を自覚していたなら、あなたは悔い改める必要のない悔い改めをしていたことであろう。」(性行為、姦淫、離婚への証 169)

- c. わたしたちには、だれだけに希望がありますか(ローマ 5:6-11)。

## 個人的な復習問題

- a. 一年に一度あった贖罪の日の意味は何でしたか。それはいつ行われましたか。  
b. 日ごとの務めと年ごとの務めの違いは何ですか。  
c. 罪が許されることと取り除かれることの違いは何ですか。  
d. 聖所に連れてこられた二匹のやぎの象徴的な意味は何でしたか。  
e. アザゼルのやぎとサタンの運命の類似点を説明しなさい。

## 預言者ダニエルの幻

「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」(ダニエル 12:4)

「ダニエルが神から受けた光は特別にこの終わりの時代のために与えられた。彼の見た幻は、今、その成就が進行しつつあり、あらかじめ述べられたすべての出来事はまもなく実現するようになる。」(牧師への証 112, 113)

推奨文献： 国と指導者下巻 159-164

日曜日

6月5日

### 1. 預言の中の古代帝国

- a. 国家の歴史の中で、宇宙の君主が実行しておられる原則を述べなさい (エゼキエル 21:27, 28; ダニエル 2:21; 4:35)。

「活動の舞台に上った国はすべて、警護者と聖なるおかたのみこころを達成するかどうかということを決めるために、地上でその地位を占めることが許される。」(国と指導者下巻 142)

- b. 国々についての預言が成就してきた正確さから、わたしたちは何を学ぶべきですか (イザヤ 46:9, 10)。

「諸国の歴史は、今日われわれに語っている。神はすべての国とすべての人間に、神の大いなる計画の中における場所をお定めになられた。今日、人々もまた国々も、誤られることのない神の手の中にあるおもりによって量られているのである。各々は自分自身の選択によって、各自の運命を決定している。そして神はそのすべてを支配して、みこころを達成しておられるのである。……

預言が、起こると予告したことはすべて、現在まで歴史のページをさかのぼることができるのであるから、これから起こることもすべて、その順序どおりに成就するものと確信してよいのである。」(同上下巻 143, 144)

## 2. 次々と続く四帝国

- a. ベルシャザル王の治世の第三年に、ダニエルはどのような預言的な幻を見ましたか(ダニエル 8:3, 4)。天使ガブリエルは、二本の角をもった雄羊の意味を、どのように説明しましたか(ダニエル 8:20)。
- b. 御使は、雄羊に打ち勝った荒々しいやぎについて、どのような説明をしましたか(ダニエル 8:5-7, 21, 22)。
- c. アレキサンダー大王の後の四人の将軍が、彼の建てたギリシャ帝国を分割したのち、次の世界権力はどのように描写されましたか(ダニエル 8:8; 7:7)。
- d. この残酷な帝国は、凶悪などの犯罪の罪がありましたか(使徒行伝 4:26, 27)。

「キリスト教時代の初期において、キリストと彼の民に戦いをいどんだサタンの主力は、ローマ帝国であり、そこにおいて最も有力な宗教は、異教であった。こうして、龍は、第一義的にはサタンを表わすが、第二義的には異教ローマの象徴である。」(各時代の大争闘下巻 157)

- e. この暗い世に行き渡っている邪惡のただ中でさえ、何を認識するとき、わたしたちに慰めをもたらしますか(ダニエル 2:20-22; 使徒行伝 15:18)。

「預言はバビロン、メド・ペルシャ、ギリシア、ローマなどの、世界の大帝国の興亡の歴史を記している。これらの国々においても、弱小国家の場合と同様に歴史がくり返されているのである。それぞれの国にテストの期間が与えられた。そして、それぞれの国がその試練に失敗して、その栄光は消え、その力は去っていった。

強国が神の原則を拒否し、その拒否のゆえに国家の滅亡を招いたのであったが、それでもなお、すべてを支配する神のみこころが、各時代を通じて著しく働いていたのである。」(国と指導者下巻 142)

### 3. 小さい角の台頭

- a. ダニエルの幻の中の十本の角のうちの一本について、何が目立ちましたか。またこれは何を意味していますか (ダニエル 8:9-11, 24, 25; 7:8)。

「ダニエルは、小さい角、すなわち法王制について、次のように言っている。『彼はまた時と律法とを変えようと望む』 (ダニエル書 7:25)。そして、パウロは、この同じ権力を、神よりも自分を高める『不法の者』と呼んだ。」 (各時代の大争闘下巻 166)

- b. 預言の言葉は、新約聖書の中ですでに宗教的・政治的権力へと発達している小さい角について、何と述べていますか (テサロニケ第二 2:3, 4; 黙示録 13:2-8)。
- c. 新約聖書では、この権力は何という名で述べられていますか。いつ、どのようにこの権力はついに終焉を迎えますか (ダニエル 7:11, 26; 黙示録 17:5, 16; 18:7, 16, 18, 20)。
- d. 預言者が二人の御使の間の会話を聞いていたときに、彼の心にどの質問が印象づけられましたか。そして、何という答えを聞きましたか (ダニエル 8:12-14)。
- e. ダニエル 8 章の中で、真理、聖所、そして衆群の主が、預言的 2300 日 (もしくは字義通りの 2300 年) の終わりまで、小さい角によって足の下に踏みつけられています。ダニエル 7 章では、同じ宗教的・政治的権力は、裁きの時まで勝利を得ています (ダニエル 7:19-22)。そこで、2300 年の終わりに神のご計画におけるどの大きな出来事が同時に起こらなければなりませんか。

「『2300 の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』というダニエル書 8:14 の預言と、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである』という第一天使の使命とは、ともに、至聖所におけるキリストの務め、すなわち調査審判をさす」 (同上下巻 139)

- f. どの出来事の後、またどの期間の後、聖書は調査審判の開始を定めていますか (ダニエル 7:25, 26; 黙示録 11:2, 3, 18, 19)。

#### 4. 「荒らす憎むべき者」

- a. イエスはダニエルに与えられた幻の中で語られた「荒らす憎むべき者」について、初期の弟子たちに、どのような警告をお与えになりましたか（マタイ 24:15-20）。

「エルサレムの城外、数マイルにわたる聖地に、ローマ人の異教の軍旗が立てられるとき、キリストに従う者たちは、安全をもとめて逃げなければならなかった。警報が見えたならば、のがれることを望むものはためらってはならなかった。避難警報は、エルサレム城内と同様に、ユダヤ全土において、直ちに従うべきものであった。屋上にいる者は、どんなに大切な宝物であっても、それを取りに家の中にはいつてはならなかった。畠やぶどう畑で働いていたものは、日中働いていたときに脱いでおいた上衣を取りに帰ってはならなかった。彼らは、一瞬でもためらってはならなかった。さもないと一般の人々と共に滅びにまき込まれてしまうのであった。」（各時代の大争闘上巻 12, 13）

- b. 「荒らす憎むべき者」についてのこの預言は、どの意味において、今日第二に適用されますか。ダニエル 8:13; 9:26, 27; 11:31; 12:11 を参照しなさい。

「初期の弟子たちのように、わたしたちが人里はなれた孤独な場所に避難を求めざるを得なくなるのは、遠い先のことではない。ローマ軍によるエルサレムの包囲がユダヤのクリスチャンにとって逃亡のしるしであったように、法王制の安息日を強制する法令において、わたしたちの国家〔米国〕の側の権力の掌握が、わたしたちにとって警告となる。そのとき、山々の間の人里離れた場所における奥まった家庭のために、より小さな町を離れる準備として、大都市を離れるべき時である。

わたしは何年もの間、わたしたちの働きを都市に集中すべきではないという光を与えられてきた。これらの都市を満たす騒動や混乱、労働組合やストライキによってもたらされる状況は、わたしたちの働きにとって大変な妨害となることが分かる。人々は、さまざまな取引に携わっている人々をしかるべき組合のくびきの下につなぐようとしている。これは神のご計画ではなく、わたしたちが決して認めるべきではない権力の計画である。……

都市から離れて、小さな土地の一片を手に入れ、自分と子供たちのために家庭を築くことのできる田舎へ出て行くように、わたしたちの民を教育しなさい。……

まもなく、都市であまりの紛争や混乱のために、都市を離れたいと思う人々が離れられなくなる。」（マラナタ 180）

## 5. 時の緊急性

- a. まさにわたしたちの目の前で預言の成就が展開されているのを見るとき、わたしたちはどの励ましの言葉を心に留めるべきですか（伝道の書 7:8; ユダ 1:21）。

「わたしは有るという偉大な神が、み言葉の中にお与えになった預言は、永遠の過去から永遠の未来に至るまでの諸事件を一つ一つつなぎ合わせて、われわれが今日、時代の推移の中のどこに位するかを告げ、また将来何が起こるかを示しているのである。……

現代はすべての人間にとって、圧倒的に興味深い時である。統治者や政治家たち、信頼と権威の座を占める人々、各階層の識者たちは、われわれの周りに起こっている出来事に注意を集中している。彼らは国家間の関係を見守っている。彼らは地上の勢力が緊張度を増しているのを観察する。そして彼らは、重大で決定的な何事かが起ころうとしており、今や世界は、驚くべき危機の瀬戸際に立っているのを認めるのである。」（国と指導者下巻 144）

## 個人的な復習問題

- a. 預言者ダニエルの幻の中で、二本の角を持った雄羊によってどの王国が象徴されましたか。
- b. 古代歴史の中で、雄羊を打ち負かした荒々しいやぎはだれでしたか。やぎの大きい角が折れた後に現れた四本の角はだれでしたか。
- c. 四本の角の一つの領土（マケドニア）において根ざした「小さい角」によって象徴されていたのは、だれでしたか。
- d. ダニエルによって語られた「荒らす憎むべき者」という二重の意味を持つ預言について、イエスは何を預言なさいましたか。
- e. 小さい角によって象徴された宗教的・政治的権力がその至上権を失った後、天の聖所の至聖所は、どの働きのために開かれましたか。

## 説明されたダニエルの幻の前半

「それをあなたに告げるためにきたのです。あなたは大いに愛せられている者です。ゆえに、このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい。」(ダニエル 9:23)

「8章の幻のなかで、重要な点が一つ説明されていなかった。それは、時、すなわち2300日の期間に関するものであった。それゆえに天使は、再び説明を始めるにあたって、主に時の問題に関して述べた。」(各時代の争闘下巻12)

推奨文献： 同上8-16

日曜日

6月12日

### 1. ダニエルが幻を理解しようと努める

- a. 御使ガブリエルが、荒らすこと、また聖所を足の下に踏みつけることを引き起こした小さい角に関連する預言的な2300日を説明し終わる前に、ダニエルはどうなりましたか(ダニエル 8:25-27)。
- b. ガブリエルが立ち去った後、ダニエルの大きな懸念は何でしたか。彼はエレミヤの預言の書き物の中にどの答えを見出そうとしましたか。彼の祈りの重荷は何でしたか(ダニエル 9:2, 17-19)。
- c. わたしたちは、ダニエルが自分の嘆願をもって全能者に近づいたその態度から何を学ぶべきですか(ダニエル 9:3-11)。

「今、来なさい、まだ憐れみが立ち去りかねている間に、告白をもって来なさい。魂の悔悟をもって来なさい。そうすれば神は豊かに許してください。……

神のみ前で深いへりくだりのうちに待ちなさい。この時より、自分のすべての義務をなし、絶対的に偉大な贖罪に信頼して、主のものとなることを決心しなさい。これをしなさい、そうすればあなたには何も恐れることはない。」(教会への証5巻353)

## 2. 幻を説明するためにガブリエルが戻る

- a. 神はダニエルの悔悟の祈りにどのように答えてくださいましたか（ダニエル 9:20, 21）。
- b. ガブリエルは幻の一部だけを説明したため（ダニエル 8:11-14, 25, 26）、彼は何の目的で戻ってきましたか（ダニエル 9:22, 23）。

「天使は、ダニエルが8章の幻のなかで理解しなかった点、すなわち、『2300の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という、時に関する言葉を説明するという目的のために、特につかわされたのであった（ダニエル 8:14）。」（各時代の争闘下巻 12, 13）

- c. ガブリエルは預言的 2300 日の最初の部分をどのように説明しましたか（ダニエル 9:24）。

「『このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい』と命じたあとで、天使が最初に語った言葉は、『あなたの民と、あなたの聖なる町については、70 週が定められています』ということであった（ダニエル 9:23, 24）。ここで『定められています』と訳された言葉は、字義的には、『切り取る』という意味である。70 週、すなわち 490 年は、特にユダヤ人のために切り取られていると天使は宣言した。しかし、それは、何から切り取られたのであろうか。2300 日がダニエル書 8 章において述べられている唯一の期間であるから、70 週が切り取られたのは、それからに違いない。したがって 70 週は、2300 日の一部であり、この二つの期間は、同時に始まるものでなければならない。70 週は、エルサレムを建て直せという命令が出た時から始まると、天使は言明した。この命令の年代を発見することができるなら、2300 日という長い期間の起算点も確かめることができる。

この命令は、エズラ記の 7 章にしるされている（12-26 節参照）。それは紀元前 457 年に、ペルシャ王アルタシャスタによって、最も完全な形で発布された。しかしエズラ記 6:14 には、エルサレムにある主の家が、『クロス、ダリヨスおよびペルシャ王アルタシャスタの命によって』建てられたと言われている。勅令を発し、確認し、完成したこれら三人の王によって、預言が 2300 年の起算点として要求していることが成し遂げられた。勅令が完全なものとした紀元前 457 年を出発点として、70 週に関する預言はすべて成就されたことがわかった。」（同上 13, 14）

### 3. 鍵となる預言が成就した

- a. ダニエルに与えられた幻の中の預言的な 70 年は、神の使者によって、どのように分けられましたか (ダニエル 9:25)。

「アルタシャスタ王の勅令は、紀元前 457 年の秋に実施された。その時から〔預言的 69 週もしくは〕 483 年がたつと、紀元 27 年の秋になる……その時、この預言は成就した。『メシヤ』とは、『油を注がれた者』という意味である。キリストは、紀元 27 年の秋、ヨハネからバプテスマを受け、聖霊の油を注がれた。使徒ペテロは、『神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました』とあかししている (使徒行伝 10:38)。」 (各時代の大争闘下巻 14)

- b. 御使は、ユダヤ人のために定められた 490 年の預言的最終週を、どのように説明しましたか (ダニエル 9:27 上句)。

「『彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。』ここで言われている『一週』は、70 週の最後の週のことである。それは、ユダヤ人のために特に定められた期間の最後の 7 年である。紀元 27 年から 24 年に及ぶこの期間内に、最初はキリストご自身によって、そしてその後は彼の弟子たちによって、福音の招きが特にユダヤ人たちに与えられたのである。使徒たちが、天国のよろこばしい福音を宣べ伝えるために出て行ったときに、救い主は『異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところに行け』とお命じになった (マタイ 10:5, 6)。」 (同上 14, 15)

- c. 最後の預言的な週の半ばに何が起こりましたか (ダニエル 9:27 中句)。

「『彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう』 (ダニエル 9:27)。紀元 31 年、われわれの救い主は、そのバプテスマから 3 年半の後に十字架にかかられた。カルバリーにおいてささげられた大いなる犠牲によって、4000 年の間神の小羊を指し示してきた犠牲制度は終わった。型は実体と出会い、儀式的な制度のあらゆる犠牲と供え物は、そこで終わるのであった。」 (同上下巻 15)

#### 4. 70 週が終結する

- a. 最後の預言的な週が終わったときに、何が起こりましたか（使徒行伝 7:59, 60; 8:1-5; 13:46, 47; 22:21）。

「ユダヤ人のために特に定められた 70 週、すなわち 490 年は、これまで見てきたように、紀元 34 年で終わった。ユダヤ国民は、その時、サンヒドリンの決議によって、ステパノを殉教させ、そしてキリストの弟子たちを迫害することにより、福音の拒否を決定的なものにしてしまった。それ以後、救いのメッセージは、もはや選民に限られることなく、全世界に伝えられた。」（各時代の大争闘下巻 15）

- b. 紀元後 34 年に終わった預言的 70 週の後、エルサレムの都と宮に何が起こりましたか（ダニエル 9:26, 27; マタイ 24:15, 16, 1, 2）。

「都も神殿とともに完全に破壊され、神殿の跡は、「畑のように耕され」た（エレミヤ 26:18）。包囲とその後の虐殺によって死んだ者は百万人以上であった。生存者は、捕虜として連れていかれたり、奴隷に売られたり、勝利者の凱旋を飾るためにローマへ引かれて行ったりした。また円形劇場で野獣の餌食になった者もあれば、流浪の民として世界じゅうにちらばった者たちもいた。」（同上上巻 24）

- c. イエスの時代のユダヤ人は、「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」と叫ぶことによって、どのような責任を自らの身に負いましたか（マタイ 27:25）。

「うたれた神の小羊をながめながら、ユダヤ人たちは、『その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい』と叫んだ（マタイ 27:25）。その恐るべき叫びは、神のみ座にのぼって行った。彼らが自らの上にくださったその宣告は、天に記録された。その祈りは聞かれた。神のみ子の血は、永遠ののろいとなって、彼らの子らとそのまた子らの上にあった。それは、恐ろしくもエルサレムの滅亡に実現された。それは、恐ろしくも……ユダヤ国民の状態にあらわされてきた。」（各時代の希望下巻 255）

## 5. 熱心な探求者は報われた

- a. 主の御使は、2300 日について、なんと仰いましたか（ダニエル 8:26）。どのように再臨信徒たちは、預言的 2300 日の終りが 1844 年だということを見出したのですか。わたしたちはこの経験から、どのような教訓を得ることができますか（申命記 4:29; 29:29; ヨハネ 7:17）。

「ここまで、預言に指示されたことはみな、驚くばかりに成就した。そして 70 週が紀元前 457 年に始まり、紀元 34 年に終わることが、疑いの余地なく確定した。この年代から 2300 日の終わりを見いだすことは、難しいことではない。70 週、すなわち 490 日が 2300 日から切り取られると、あとに 1810 日が残る。490 日が終わったあとで、1810 日もまた成就するはずであった。紀元 34 年から 1810 年たてば、1844 年になる。したがって、ダニエル 8:14 の 2300 日は 1844 年に終わる。この大いなる預言の期間が終わったところで、「聖所は清められる」と神の天使はあかししたのである（ダニエル 8:14）。」（各時代の大争闘下巻 15,16）

「イエスは、まじめな気持ちをもって、主を求めるすべての者に、みことばの意味を明らかになさるのであるから、彼らにもそれと同じようにしてたとえを説明なさった。聖霊の光をいつでも心に受ける用意をしながら、神のみことばを研究するものは、決してその意味がわからないということはない。「神のみことばを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」（ヨハネ 7:17）。真理を、さらに、はっきりと知りたいと願ってキリストのところに来る者は、みな教えを受けることができる。キリストは、彼らに天国の神秘をご説明になる。こうした神秘は、真理を知ろうと願う人には、必ずわかるのである。」（キリストの実物教訓 13）

## 個人的な復習問題

- a. ダニエル 8:11-14, 25, 26 に関連する幻について、ダニエルの懸念は何でしたか。彼はこの幻の説明をどこに見出そうと努めましたか。
- b. ダニエルの祈りの意味を要約しなさい。
- c. 神の使者ガブリエルは、預言的な 2300 日の初めの部分について、どのような説明をしましたか。
- d. 預言的な 70 週の終了後まもなく、エルサレムと宮の運命はどうなりましたか。
- e. わたしたちは再臨信徒の先駆者たちがダニエル 8:14 の預言的な 2300 日が 1844 年に終わることを見出した方法から、どのように励まされますか。

## ご自分の聖所におられるキリスト

「このような大祭司がわたしたちのためにおられ、……人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる」(ヘブル 8:1, 2)

「キリストは一つの十分な犠牲を払われ、神と人の間の唯一の仲保者またただ一人の祭司となってください。すべての人は道に立ち入ることなく、キリストのくびきを負って自分自身の場所を占めようではないか。」(原稿リ-ス 9 卷 184)

推奨文献： 各時代の大争闘上巻 44-58, 下巻 210-226

日曜日

6月19日

### 1. キリスト、聖所の奉仕者

- a. 旧約時代において、日ごとの贖罪の目的は何でしたか (レビ記 4:13, 20, 26, 31, 35)。民の罪は日ごとの贖罪によって許されたにもかかわらず、何の目的で年ごとの贖罪がありましたか (レビ記 16:16, 30, 33)。

「モーセの制度において、聖所の清め、すなわち、大いなる贖罪の日は、ユダヤ暦の 7 月 10 日に行なわれた (レビ記 16:29-34)。その日に、大祭司は、全イスラエル人の罪の贖いをなし、彼らの罪を聖所から除き、出て来て、民を祝福した。」(各時代の争闘下巻 106)

- b. 聖所に累積された罪が取り除かれて、「人里離れた地に」「定めておいた人の手によって」(レビ記 16:21, 22) 送られる) 生きているヤギの頭におかれたとき、この人は、宿営に入る前に何をしなければなりませんでしたか (レビ記 16:26)。
- c. 自分が確かにきよめられたこと—自分たちの告白した罪から解放され、日ごとの贖罪において許されたこと—をいつ確かに知ることができましたか (レビ記 16:29, 30, 33, 34)。

## 2. 恵みのみ座—どこに？

- a. 「天にある聖所のひな型と影とに仕え」るために、地上の聖所では何がなされましたか（ヘブル 8:5）。ですから、わたしたちの大祭司はどこにいますか。彼はわたしたちのために何をしていますか（ヘブル 9:11, 12; ヨハネ第一 2:1, 2）。
- b. わたしたちの祈りをもって来るようにと招かれている恵みの御座はどこにありますか（ヘブル 4:16; 黙示録 8:3）。
- c. わたしたちの日ごとの祈りに応えて、わたしたちの罪が告白され、許されるとき（ヨハネ第一 1:9; マタイ 6:12）、それらはただちに除去されますか。もし、そうでないとするば、それらはどこへ、何の目的で行くのですか（テモテ第一 5:24）。

「ある人の罪は前もって明らかにされ、悔悟のうちに告白され、捨てられる。そしてそれらは前もって裁きに持ち出される。許しが、これらの人々の名の向かい側に記される。しかし、他の人々の罪は後に続き、悔い改めと告白によって放棄されない。そしてこれらの罪は天の書において彼らに不利な記録として残るのである。」（SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 7 巻 916）

「いつでもあなたの過ちを告白し、それらを捨てるのに早く、そうしようと切望していなさい。それはあなたの過ちと罪が、前もって裁きへ持ちだされ、除去されるためである。」（教会への証 5 巻 331）

- d. 教会内の罪を根絶するわたしたちの義務に関して、わたしたちはいつもどのような警告を心に留めておくべきですか（マタイ 13:27-30）。

「神はご自分の教会に尊い人々をもっておられる。麦の中の毒麦のような男女もいる。しかし、主はあなたにもほかのだれにも、だれが麦で、だれが毒麦であるかを告げる務めを与えてはおられない。わたしたちは自分では少しも気づいていなくても、他人からははっきりと認められるもっと大きな欠点がありながら、他人の欠点を見て、非難するかもしれない。」（同上 333, 334）

### 3. わたしたちの唯一の仲保者

- a. 世の初めから神の民には、何が教えられていましたか（ヘブル 9:22 下句；ヨハネ 1:29；黙示録 13:8 下句）。

「伝達路はただ一つであって、それはすべての人が近づくことができる。そして、その伝達路を通して豊かで十分な許しが、悔いて呵責を感じている魂を待ちうけており、最も暗い罪も許される。

これらの教訓は何千年も前に選ばれた神の民に教えられ、そしてさまざまな象徴や比喻のうちに繰り返された。それは血を流すことなしには罪のための許しはないという真理のわがが、すべての心の中にしっかりと固定されるためであった。すべての血を流した犠牲の供え物のうちに具現化された偉大な教訓、すなわちすべての儀式の中で印象づけられ、神ご自身によって繰り返し教えられた教訓とは、キリストの血を通してのみ、罪の許しがあるということであった。」(SDA バイブル・コメント [E.G. 柯什・コメント] 7 巻 913)

- b. だれが、わたしたちの唯一の仲保者であり、救い主ですか。またどのようにしてこのお方はわたしたちの贖いを得られましたか（ヨハネ 14:6；テモテ第一 2:5；ヘブル 9:12）。
- c. このお方への道が聖所の中に開かれたため、わたしたちは何をするように助言されていますか（ヘブル 10:19-22）。神の民は信仰によって、終わりの時代にどこで礼拝をしていますか。また彼らは何を見ますか（黙示録 11:1, 19）。
- d. 彼らはほかに信仰によって何を見ますか（ダニエル 7:9, 10）。彼らは何を理解しますか（黙示録 14:7；使徒行伝 3:19）。

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)〕の 때가』くるときにぬぐい去られる。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている（使徒行伝 3:19 参照。同 20 節）。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行ないにしたがってお与えになるのである。」（各時代の争闘下巻 218）

#### 4. 世の終わりに

- a. 天の聖所におけるキリストの働きが理解されるとき、どの欺瞞がはっきりと目立つようになりますか (ダニエル 8:13)。

「いわゆる聖徒のとりなしは、考案しうる最大の欺瞞である。祭司や役人たちは、あたかも救い主の特質をまとい、不義や罪を許すことができるかのように、キリストとこのお方がそのために死なれた魂の間に介入する権利はない。」(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. 叔父・コメント] 7 巻 913)

「カトリック教会は罪を許す権威があると主張しているために、信者たちは罪を犯してもかまわないと思うようになる。また、それなしには教会の許しは与えられないという告解の儀式は、悪を承認するのにも役立っている。」(各時代の犬争闘下巻 324)

- b. わたしたちはどのようにキリストのうちに「完全」になることができますか (コロサイ 2:10; 4:12)。

「〔キリストの〕犠牲を通して、人間は自分たちの前におかれた高い理想に到達することができる。そして、あなた自身の義を持つのではなく、あなたのためにこのお方がもたらして下さる義をもって、ついに『あなたは彼のうちにあって完全である』という言葉聞くのである。」(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. 叔父・コメント] 7 巻 907)

- c. 「世の終り」、すなわちキリストの来臨の直前の天の聖所のきよめに関して、パウロは何と言及していますか (ヘブル 9:23-28)。

「型としての奉仕において、大祭司は、イスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出て来て、会衆を祝福した。そのように、キリストも、仲保者としての働きを終えられると、『罪を負うためではなしに……救いを与える』ために来られて、彼を待っている人々に永遠の生命をお与えになる (ヘブル 9:28)。祭司が聖所から罪を除去したときに、アザゼルの山羊の上にそれを告白したように、キリストは、罪の創始者であり煽動者であるサタンの上に、これらの罪をすべて置かれるのである。アザゼルの山羊は、イスラエルの罪を負って、『人里離れた地』に送られた (レビ記 16:22)。そのように、サタンは、自分が神の民に犯させたすべての罪を背負って、千年の間、この地上に監禁される。地上はその時、荒れ果てて住む者もない。そして彼は、ついに、すべての悪人を滅ぼす火の中で、罪の刑罰を余さず受ける。」(各時代の犬争闘下巻 218)

## 5. まだ勝利は可能！

- a. わたしたちの罪が除去されるために残されている時間の短さを考えるとき、何がわたしたちにとって最も緊急の優先事項となるべきですか（コリント第二 4:5-7; 6:2; ペリピ 2:5）。

「サタンは、キリストに従うと公言している者が、自分の品性の欠点の言い訳をしているのを聞くと、勝ち誇る。悔い改められておらず、告白されていない罪は、決して神の記録の書から除去されることはできない。忠実で徹底的な罪の告白を通して、心はその道徳的な不純から清められる。魂が神のみ前に無罪を宣言されることができるまえに、主が譴責なされた罪を捨て去らなくてはならない。……

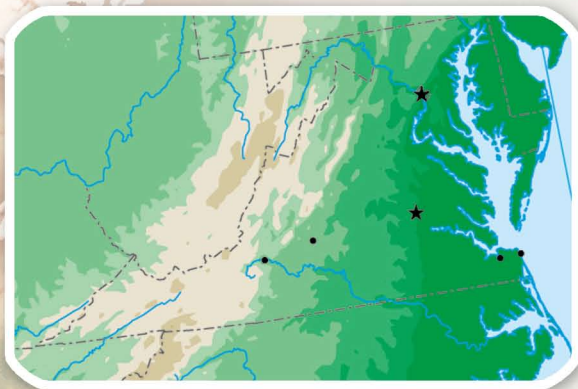
誘惑するのはサタンの働きであり、イエスのみ名と力によって抵抗し、「『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」（マタイ 4:10）というのは、人の働きである。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1899 年 12 月 13 日）

「命は、そのすばらしい特権と機会と共に、まもなく終わる。品性の向上のための時間は過ぎてしまう。わたしたちの罪が今、悔い改められ、小羊の血によって除去されるのでないかぎり、それらは天の台帳の中で来たるべき日にわたしたちに立ち向かうのである。そうであれば、熱心に自分自身を神のみ言葉の光のうちに吟味し、品性のすべての欠点を発見するように努めようではないか。わたしたちが自分の衣を洗い、それらを小羊の血で白くすることができるように。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1910 年 4 月 21 日）

## 個人的な復習問題

- a. 日ごとの贖罪と年ごとの贖罪の違いを説明しなさい。
- b. キリストの死によって、わたしたちの前にどの道が開かれましたか。何の目的で、そしてどのように、わたしたちは天の聖所に入りますか。
- c. わたしたちの罪を悔い改めて告白した後、日々、それらは除去される前に、どこへ行っているのですか。
- d. ヘブル 9:23-28 を基に、キリストの来臨直前の終わりの時における天の聖所のきよめを説明しなさい。
- e. まだわたしたちが手に入れることのできる、どの機会は、まもなく去ろうとしていますか。

# 第一安息日献金

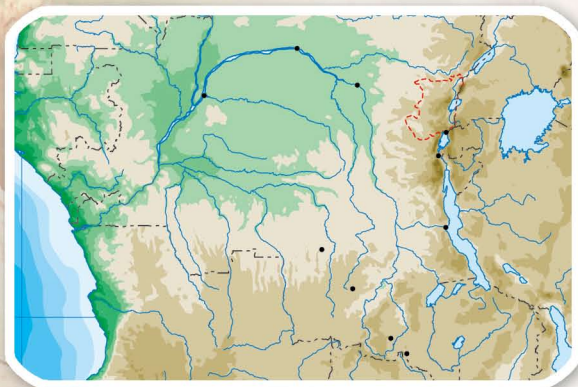


4月2日

米国バージニア州ロアノークの  
礼拝堂のために  
(4 ページ参照)

5月7日

ミネアポリス・プロジェクト  
2011 のために  
(30 ページ参照)



6月4日

コンゴ民主共和国 (DRC) の  
北キブのために  
(51 ページ参照)